京都光華女子大学
京都光華女子大学大学院／京都光華女子大学短期大学部

2019年度

報告書

女性キャリア開発研究センター
Center for Women's Career Development

Center for Women's Career Development

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部
女性キャリア開発研究センター

INDEX

ご挨拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 01
光華女子学園の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 03
センターの役割 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 04
活動報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 05

Ⅰ 女性のための就業継続支援システムの構築

(1) 卒業予定者対象 第1回「キャリア支援調査」結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 05
(2) 新入生対象 第3回「職業意識に関するアンケート調査」結果 ・・・・・・・・・・・・ 07
(3) 卒業生対象 第2回「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」結果 ・・・・・・ 09
(4) 2018年度紀要論文抄録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
(5) 2019年度紀要論文抄録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

Ⅱ 減災リーダー育成プログラムの開発

(1) 情報収集・事例研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
(2) 減災リーダー育成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
(3) 京都学生FAST ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

Ⅲ 女子大学連携のためのネットワーク

(1) ミーティングの開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
(2) 国際女性デーシンポジウムの開催 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
(3) メディア掲載 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

Ⅳ キャリア教育

(1) キャリア相談・キャリア支援コーナー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
(2) 出張講義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
(3) インターンシップ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
(4) 企業訪問研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
(5) ボランティア ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
(6) 学Booo ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37

Ⅴ リカレントプログラム

(1) 京都光華女子大学・京都光華女子短期大学部リカレントプログラム ・・・・・・ 43
(2) 女性のためのリカレント教育推進協議会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

編集・発行 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

ご挨拶

時代を超え受け継ぐ校訓「真実心」
今こそ「輝く女性の未来」を導く

学校法人 光華女子学園
名誉理事長・学園長　阿部　敏行

光華女子学園は昭和14年、東本願寺の故大谷智子裏方（昭和天皇妃-香淳皇后-の妹君）の「仏教精神に基づく女子教育の場」を、との願いによって設立された真宗大谷派の宗門関係学園です。校訓を「真実心」と掲げ、教育の基本を仏教、なかでも親鸞聖人があきらかにされた浄土真宗の教え、すなわち「生かされ生きていることの自覚」による人間形成に置き、向上心（=精進）、潤いの心（=慈悲心）、そして感謝の心、すなわち「光華の心」を大切にする人間の育成に努めております。近年女性の生き方が多様化し、女性に係わる社会的問題が多角的に進展する中、女性の社会での活躍が大いに期待されているのは周知の通りであります。私たちは長年培ってきた本学園ならではの女子教育の理念と人材育成の成果を基軸に、これからの社会に求められる「知性と教養のある輝く女性の未来」を探求するとともに、社会への知の還元と連携を深めつつ、女子教育の研究と発展を目指して、「女性キャリア開発研究センター」を2016年4月に開設いたしました。校訓「真実心」があらわす「慈悲心」、言い換えれば、「おもいやりの心」、「寄り添う心」、「他者への配慮」、「共に支えあう心」は、時代を超えて、現在の殺伐とした心の乾燥社会においても、強く希求されるものであります。創立以来脈々と受け継がれてきた建学の精神に矜持を持ち、女子の高等教育機関としての社会的責任を果たすためにも、女性キャリア開発研究センターの充実発展に一層の努力をしてまいります。

変革期における女子教育への期待

学校法人 光華女子学園
理事長　阿部　恵木

光華女子学園の教育の基本は校訓「真実心」のもと、「思いやりの心」「他者への配慮」「ともに支え合う心」を持った人材の育成であり、その実践として「光華の心」を持とうとする心がけを大切にしております。「光華の心」を持つとは、自己を問い、自己と向き合い、自分の姿をあきらかにしようとすること（向上心）を通し、自分を支えてくださっているすべての存在に感謝できる気持ち（感謝の心）が芽生え、その表れとして思いやりのある言動が行えるようになる（潤いの心）ということです。このような理念のもと女子教育に努め、73,000余の卒業生を世に送り出し、2020年、創立80周年を迎えました。近年、少子高齢化やグローバル化の急速な進展、Society5.0時代の到来などさまざまな社会環境が変化するなか、社会が期待する女性の役割だけでなく女性自身が思う女性の役割も大きく変わってまいりました。このような変革期において女子教育の役割は重要であり、期待も高まっています。本学園の女性キャリア開発研究センターでは、在学生のみならず、卒業生や一般の女性も含め、女性のキャリア開発に関する教育・研究や支援を行っておりますが、その基本は女性の人生に「寄り添う」ことであります。光華の心を胸に秘め、自分だけでなく他者も慮れる人材、すなわち「自利他利円満」な人材を育成することが「女性の輝く社会実現」に繋がるという信念のもと、本学園の発展に努力してまいります。

「女性キャリア開発研究センター」への期待

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部
学長　高見　茂

本学に設置されている「女性キャリア開発研究センター」（以下「センター」）の担う業務は6点ほど提示されている。それらは、概ね女子大生が社会人として自立できる存在になるための支援と研究に集約できる。設立以後の活動を振り返ればそれなりの成果も見られるが、「センター」のさらなる業務効率の高度化のためには、私は2つのことに取り組んで頂きたいと考えている。一つは内向きのことであるが、個別業務の相関性・関連性を検討し、それを踏まえた組織全体としての有機的構造を明らかにすることである。こうした整理を通じて、今一概念がはっきりしない「女性のキャリア開発」の内実が詳らかになると考えられる。もう一つは、女性のさらなるキャリア形成の促進のためには、内向きの業務に加えて、女性を取り巻く経済・政治・社会環境の抜本的改善・改革を促す積極的役割を担うべきであろう。研究成果の効果的な社会発信とともに、社会制度の改善・改革（政財界の女性リーダー数の増加、収入の男女格差の是正等）についても各種チャンネルを通じて意見表出を進めるべきである。米国のデル・テクノロジーの調査によれば、「女性の起業しやすい都市ランキング」で東京は50位中34位、資金・市場へのアクセス、技術水準でシンガポール（同8位）に大きく水をあけられている。今後の「センター」の積極的提言・行動を期待したい。

「女子大学に期待されること」へのチャレンジ

女性キャリア開発研究センター
センター長　加藤　千恵

女性キャリア開発研究センターは、キャリア教育機関としての役割と研究機関としての役割を期待されています。前者としてインターンシップやボランティア活動の支援、本学独自の自由参加型ラーニングコミュニティの運営、セミナー開催やキャリア相談、後者として女性の就業継続を支援するために必要なシステムの構築を目標に、在学生対象の職業意識調査や卒業生の就業状況調査を実施し、データの収集と分析を行っています。また昨年度は男女共同参画視点の減災学の取り組みを、今年度はリカレント教育プログラムをスタートさせました。大学における教育や学生支援のあり方は21世紀に入って様変わりし、一方で女性の働き方の変化が男性の働き方にも影響を与える時代になりました。女子大学が取組む課題は増えつつあり、本学も含めて多くの大学がその社会的役割に気づいています。京都の3女子大学が全国の女子大学に呼びかけた「女子大学連携ネットワーク」に多くの女子大関係者の方々が集ってくださるのは、個々の大学で対応するには限界がある課題を共に解いていく時代にきていることを共有し合えるからでしょう。女性たちの就労に対する意識が、子育て退職・再就職型から就業継続型に移行しつつあるなかで、これからの女子大学は社会に出た女性たちに何をするべきか、何ができるのか。今後も多様な仕事、異なるニーズをもつ女性たちに向けたサポートを進めてまいります。

光華女子学園の概要

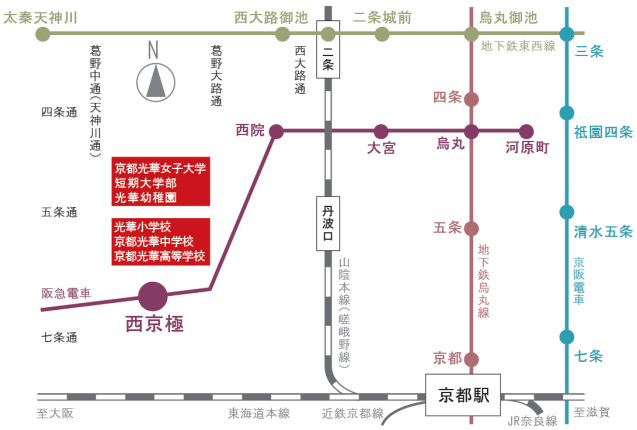
光華女子学園は、京都光華女子大学、京都光華女子大学大学院、京都光華女子大学短期大学部、京都光華高等学校、京都光華中学校、光華小学校、光華幼稚園を設置し、同一キャンパスにすべての校園を配する総合学園として 2020 年度、創立 80 周年を迎える。

沿革

1939(昭和14)年 9月15日	財団法人光華女子学園設立認可 光華高等女学校設置認可
1940(昭和15)年 4月 1日	光華高等女学校開設
1944(昭和19)年 3月11日	光華女子専門学校開設 数学科、生物科、保健科を設置
1945(昭和20)年 3月29日	高女同窓会「澂清会」発足
1947(昭和22)年 3月15日	女専同窓会「ふかみぐさ」発足
1947(昭和22)年 4月 1日	学制改革により光華中学校開設(光華高女より)
1947(昭和22)年10月10日	光華女子専門学校保健科を生活科に改称
1948(昭和23)年 4月 1日	学制改革により光華高等学校開設(光華高女より)
1950(昭和25)年 4月 1日	光華女子専門学校を光華女子短期大学に移行 文科、家政科を設置
1951(昭和26)年 2月28日	学校法人光華女子学園設立認可
1954(昭和29)年 4月17日	光華衣服専門学院開設
1964(昭和39)年 4月 1日	光華女子大学開設 日本文学科、英米文学科を設置(短大文科を移行)
1965(昭和40)年 4月 1日	光華幼稚園開設
1968(昭和43)年 4月 1日	光華小学校開設
1987(昭和62)年 4月 1日	短期大学、家政科に生活科学専攻と生活文化専攻を設置
1989(平成 元)年11月15日	総裁大谷智子裏方還浄(83才)
1991(平成3)年 4月 1日	真宗文化研究所開設、情報教育センター開設
1993(平成5)年 4月 1日	短期大学、家政科を生活学科に改称
1994(平成6)年 4月 1日	大学、文学部に人間関係学科を開設
1994(平成6)年 11月22日	光華衣服専門学院廃校
1995(平成7)年 4月 1日	短期大学、生活学科に4専攻を設置
1997(平成9)年 4月 1日	短期大学、生活学科に栄養専攻を設置
1998(平成10)年 4月 1日	光華女子大学大学院開設 文学研究科(修士課程)、日本語日本文学専攻、英語英米文学専攻を設置
2000(平成12)年 4月 1日	光華女子短期大学、生活学科を光華女子大学短期大学部 生活環境学科に改称 光華女子大学、日本文学科を日本語日本文学科に改称 英米文学科を英語英米文学科に改称
2001(平成13)年 4月 1日	光華女子大学大学院、光華女子大学、光華女子大学短期大学部、 光華高等学校、光華中学校を京都光華女子大学大学院、 京都光華女子大学、京都光華女子大学短期大学部、 京都光華高等学校、京都光華中学校へ校名変更 大学、文学部・人間関係学科を改組、人間関係学部・人間関係学科を設置
2002(平成14)年 4月 1日	短期大学部、栄養専攻、食生活専攻を改組、大学、人間関係学部に人間健康学科を設置
2003(平成15)年 4月 1日	大学、人間関係学部に社会福祉学科を設置
2004(平成16)年 4月 1日	大学院に人間関係学研究科(修士課程)を設置 京都光華女子大学カウンセリングセンター (人間関係学研究科附属施設)開設
2005(平成17)年 4月 1日	京都光華女子大学エクステンションセンター開設
2006(平成18)年 4月 1日	短期大学部、生活環境学科を改組、ライフデザイン学科を設置 ライフデザイン学科「地域総合科学科」適格認定 短期大学部にこども保育学科を設置
2008(平成20)年 4月 1日	大学、人間関係学部を人間科学部に改称 大学、英語英米文学科を国際英語学科に改称 大学、人間健康学科を健康栄養学科に改称
2010(平成22)年 4月 1日	大学、文学部、人間科学部を改組、人文学部、キャリア形成学部、健康科学部を設置 人文学部に文学科、心理学科を設置 キャリア形成学部にキャリア形成学科を設置 健康科学部に健康栄養学科を設置
2011(平成23)年 4月 1日	大学、健康科学部に看護学科を設置
2013(平成25)年 4月 1日	大学、健康科学部健康栄養学科に健康スポーツ栄養専攻を開設 地域連携推進センター・環境教育推進室を設置
2014(平成26)年 4月 1日	大学、健康科学部に医療福祉学科(社会福祉専攻・言語聴覚専攻)、心理学科を開設 大学院、人間関係学研究科を心理学研究科に改称
2015(平成27)年 4月 1日	大学院に看護学研究科を設置 短期大学部、こども保育学科を改組、大学、こども教育学部 こども教育学科を設置
2016(平成28)年 4月 1日	女性キャリア開発研究センターを開設
2017(平成29)年 4月 1日	教職・保育職支援センターを開設
2018(平成30)年 4月 1日	大学に助産学専攻科を設置
2019(平成31)年 4月 1日	リベラルアーツセンターを開設

キャンパス

光華女子学園のメインキャンパスは、京都府京都市右京区にある西京極キャンパスである。西京極キャンパスには、国道 9 号線（五条通り）を挟み、北校地に大学院、大学、短期大学部、幼稚園が、南校地に高等学校、中学校、小学校が設置されている。西京極キャンパスのほか、大原野グラウンド・花の寺グラウンド（西京極キャンパスから車で 17 分）を有し、運動施設として体育の授業や地域への開放などを行っている。



センターの役割

Koka's Heart* 女性の人生によりそう「女性が輝く社会」をめざして

本学は学園創立以来校訓「真実心」のもと、仏教精神に基づく教育で「心豊かで有為なる女性」の育成を実践し、大学短大においては正課教育と併せ、「キャリアセンター」がキャリア教育プログラムや個別相談などを通し、社会に貢献できる人格形成とスキルアップの支援と就職支援を推進してきた。長年培ってきた本学園ならではの女子教育の理念と人材育成の成果に加え、これからの社会と女性の関係性にフォーカスする教育を通して「女性の生き方」を探求し、女性のライフコースに沿ったキャリアの育成とその手法を社会に訴求、提言する「女性キャリア開発研究センター」を 2016 年度（平成 28 年度）に開設した。

4 年目となる 2019 年度（令和元年度）は、Ⅰ女性のための就業継続支援システムの構築、Ⅱ減災リーダー育成プログラムの開発、Ⅲ女子大学連携のためのネットワーク、Ⅳキャリア教育、Ⅴリカレントプログラム、を行った。

活動内容

Ⅰ. 女性のための就業継続支援システムの構築

女性のための就業継続支援システムの研究は、本学卒業生の就業継続促進要因・阻害要因を把握することによって、これから就業する女性たちに必要な支援策を職業別・職種別に構築していくものである。これまでに実施した「在学生の就業意識調査」、「教職員の職場環境調査」から得られた知見も含めて研究を展開させている。

Ⅱ. 減災リーダー育成プログラムの開発

減災リーダー育成プログラムの開発は、本学の校訓「真実心＝慈悲心」と、本学の学科・専攻の専門性を活かした新たな取組みである。全国的に災害リスクが高まるなか、本学の人的資源・物的資源を活用し減災に取組む手法を開発するために、自治体、本学の各学科・研究所・センターとの連携を進めている。

Ⅲ. 女子大学連携のためのネットワーク

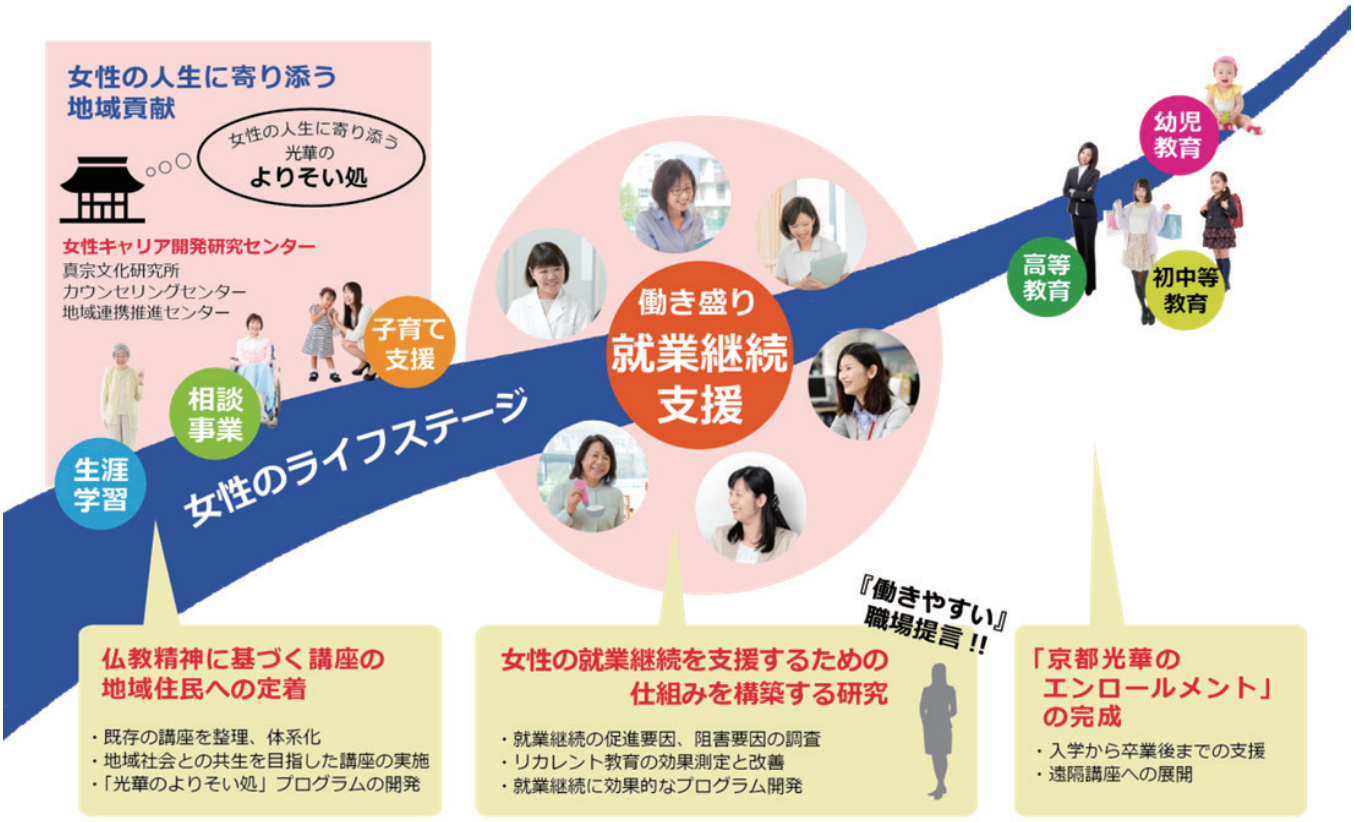
女子大学連携のためのネットワークは、「京都アカデミアフォーラム in 丸の内」に参加する京都 3 女子大学が全国の女子大学に呼びかけ 2017 年度にスタートした。女子大学に期待される課題を共有し、男女共同参画社会実現のためのセミナーや情報交換会などを開催し、地元京都はもとより全国レベルでの連携を強化している。

Ⅳ. キャリア教育

在学生のキャリア教育として、キャリアアドバイザーによる個人面談やビジネスマナー講座、センター所員による出張講義、インターンシップ・ボランティアへの参加促進と単位取得支援、本学独自の自由参加型ラーニングコミュニティ「学 Booo」などを実施している。

Ⅴ. リカレントプログラム

リカレントプログラムは、地域連携推進センターと協働で、卒業生をはじめ、京都で働く女性たちのために、2019 年 9 月から、基礎講座・ビジネス講座・専門職講座を開講した。今年度は京都府の支援を受け、保育サポート（生後 6 ヵ月～就学前）と就職サポートを行った。



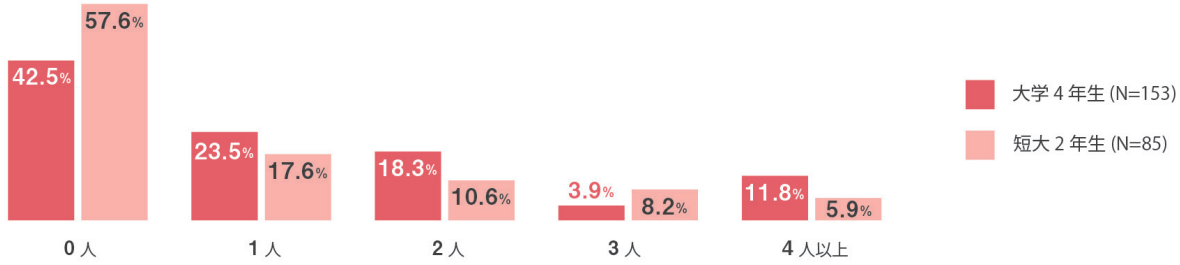
(1) 卒業予定者対象 第 1 回「キャリア支援調査」結果

卒業間近の大学 4 年生および短大 2 年生を対象に、第 1 回「キャリア支援調査」を行った。質問項目は、「在学中に出会ったロールモデルについて」、「女性が職業をもつことについて」、「性役割分業意識」、「望む『卒業生への支援』」、「女子大の良い面」などである。集計結果の一部を紹介する。

・調査対象　　大学 4 年生　計 419 名　回収数 153　回収率 36.5%
　　短大 2 年生　計 114 名　回収数 85　回収率 74.6%
・調査期間　　2018 年 12 月 22 日～ 2019 年 3 月 20 日

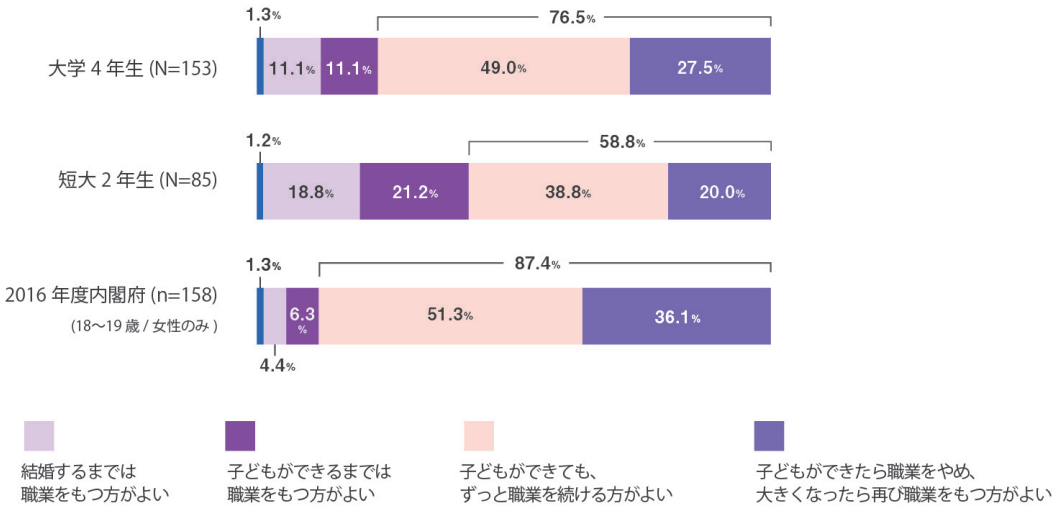
在学中に出会ったロールモデルの数を尋ねた結果、大学 4 年生、短大 2 年生ともに「0 人」と回答した人が最も多かった（①）。ロールモデルと出会った人に具体的な記述を求めた結果、教職員や先輩、同級生の他に、実習先やインターンシップ先の方、授業のゲストスピーカーの方などの回答があった。

① 在学中に出会ったロールモデルの数



女性が職業をもつことについて、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した人を合わせると、大学 4 年生では 76.5%、短大 2 年生では 58.8% であり、17.7 ポイントの差があった（②）。参考までに、2016 年度の内閣府の同調査結果（18 歳～ 29 歳の女性のみ）は 87.4%であった。

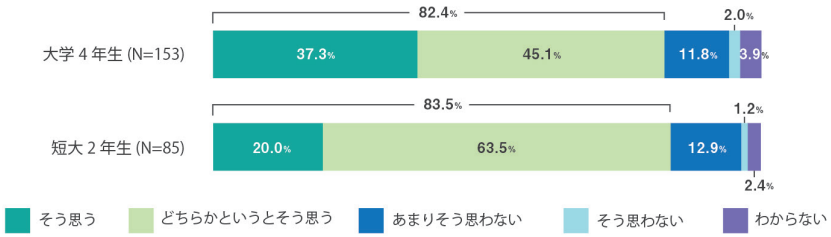
② 女性が職業をもつことについての考え方



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2016 年度）

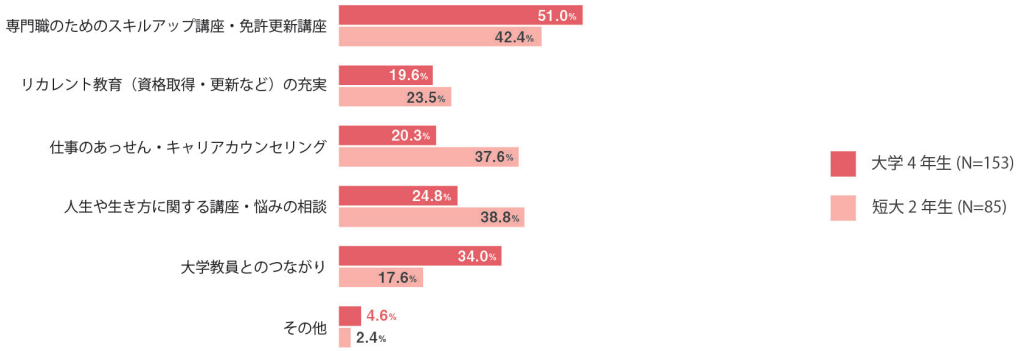
「男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい」について、「そう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した人が、大学 4 年生、短大 2 年生ともに 80%を超えていた（③）。

③ 男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい



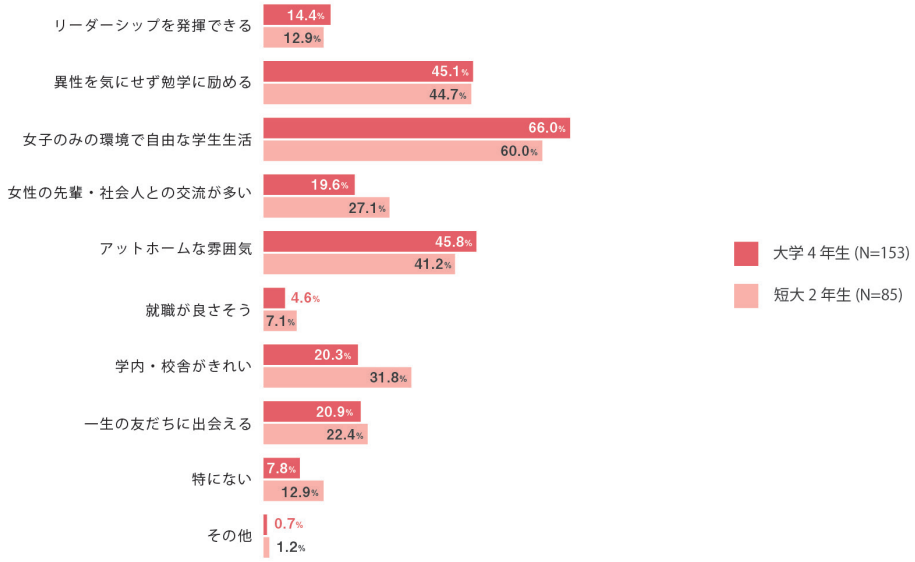
「望む『卒業生への支援』」については、大学 4 年生、短大 2 年生ともに「専門職のためのスキルアップ講座・免許更新講座」を選択した人が最も多かった（④）。

④ 望む「卒業生への支援」（複数選択）



「女子大の良い面」については、大学 4 年生、短大 2 年生ともに「女子のみの環境で自由な学生生活」を選択した人が最も多かった（⑤）。

⑤ 女子大の良い面（複数選択）



以上の結果から、本学の卒業予定者は、在学中にロールモデルと出会えていないことで、女性が働き続けるイメージを持てていない可能性が示唆された。しかし、同時に経済的自立意識は高く、卒業してからも学び続けたいという意欲も高いことから、今後は「女子大の良い面」である「女性の先輩・社会人との交流」を増やすことが課題であると考えられる。

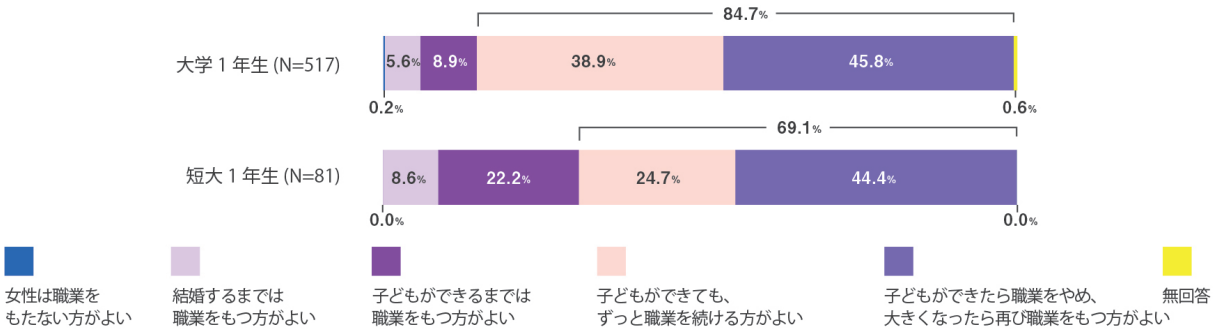
(2) 新入生対象 第３回「職業意識に関するアンケート調査」結果

入学直後の大学１年生および短大１年生を対象に、第３回「職業意識に関するアンケート調査」を行った。質問項目は、「女性が職業をもつことについて」、「性役割分業意識」、「女子大の良い面」、「男女共同参画に関する用語の認知度」などである。集計結果の一部を紹介する。

調査対象　大学１年生　計 538 名　回収数 517　回収率 96.1%
　　短大１年生　計 93 名　回収数 81　回収率 87.1%
　　合計 631 名　回収数 600（内２名学科不明）　回収率 95.1%
調査期間　2019 年４月

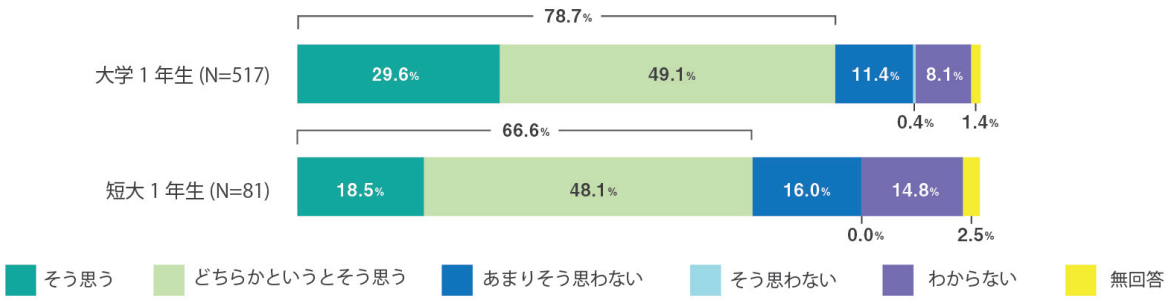
女性が職業をもつことについて、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」（就業継続型）と「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」（出産退職再就職型）と回答した人を合わせると、大学１年生では 84.7%、短大１年生では 69.1%であり、15.6 ポイントの差があった（①）。卒業予定者の調査（p.5）と比較すると、卒業予定者は「就業継続型」を選択した人が最も多く、新入生は「出産退職再就職型」を選択した人が最も多かった。

① 女性が職業をもつことについての考え方



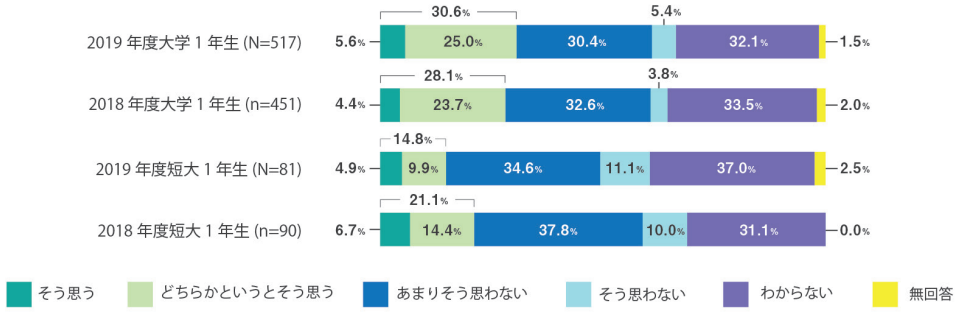
「男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい」について、「そう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した人を合わせると、大学１年生では 78.7%、短大１年生では 66.6%であった（②）。卒業予定者の調査（p.6）では 80% を超えていたことから、在学中に経済的自立意識が形成されると予測できる。

② 男女とも職業をもち経済的に自立するのがよい



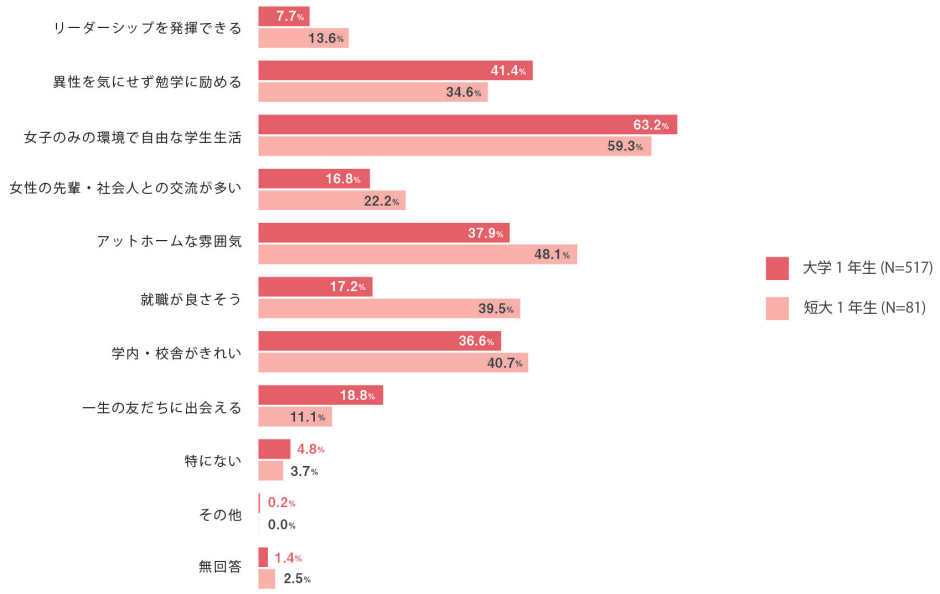
「自分は将来、社会的に活躍できると思う」について、「そう思う」または「どちらかというとそう思う」と回答した人を合わせると、大学 1 年生では 30.6%（2018 年度より＋ 2.5 ポイント）、短大 1 年生では 14.8%であった（2018 年度より－ 6.3 ポイント）（③）。将来の自分に自信を持てない新入生が多いといえる。

③ 自分は将来、社会的に活躍できると思う



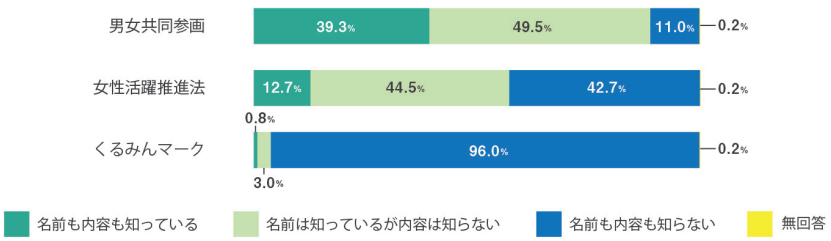
「女子大の良い面」については、大学 1 年生、短大 1 年生ともに「女子のみの環境で自由な学生生活」を選択した人が最も多かった（④）。これは、卒業予定者の調査（p.6）と同じ結果であった。

④ 女子大の良い面（複数選択）



「男女共同参画に関する用語の認知度」について、「名前も内容も知っている」と回答した人は全体的に少なかった（⑤）。「男女共同参画」は 39.3%、「女性活躍推進法」は 12.7%、「くるみんマーク」は 0.8% であった。

⑤ 男女共同参画に関する用語の認知度（N=600）



以上の結果から、本学の新入生は、女性が生涯働き続けることを念頭に置いた職業継続意識や経済的自立意識が卒業予定者のように高くはなかったことが明らかとなった。また、在学中に「社会的に活躍できる」という自信をつけてもらうためにも、女子大ならではの教育プログラム (女性のためのリーガルリテラシーなどを含む) が必要であることが示唆された。

(3) 卒業生対象 第２回「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」結果

卒業後７年～16年の卒業生を対象に、第２回「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」を行った。質問項目は、「現在の仕事について（就業形態・勤務先・職場環境など）」、「勤務先で必要とされた能力やスキル」、「男女ともに働き続けやすくなるために必要なもの」、「必要だと思う『卒業生への支援』」、「女性が職業をもつことについて」、「性役割分業意識」などである。集計結果の一部を紹介する。

調査対象　　卒業後７年～16年（2003年３月卒～2012年３月卒）の本学卒業生

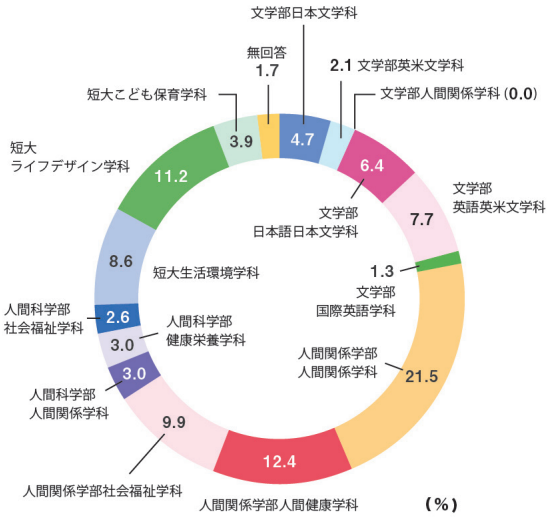
発送数 4,377通　未着数 89通　実発送数 4,288通　回収数 233　回収率 5.4%

調査期間　　2019年７月10日～2019年８月31日（※2020年１月末までの遅延分も集計）

① 回答者の割合（学年）（N=233）

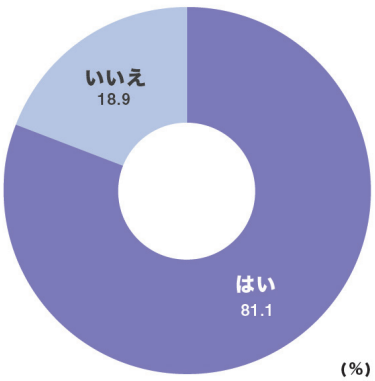
	（人）	(%)
卒業後７年（2012年卒業）	18	7.7
卒業後８年（2011年卒業）	32	13.7
卒業後９年（2010年卒業）	27	11.6
卒業後10年（2009年卒業）	27	11.6
卒業後11年（2008年卒業）	17	7.3
卒業後12年（2007年卒業）	23	9.9
卒業後13年（2006年卒業）	27	11.6
卒業後14年（2005年卒業）	11	4.7
卒業後15年（2004年卒業）	14	6.0
卒業後16年（2003年卒業）	21	9.0
無回答	16	6.9
計	233	100.0

② 回答者の割合（所属学科）（N=233）

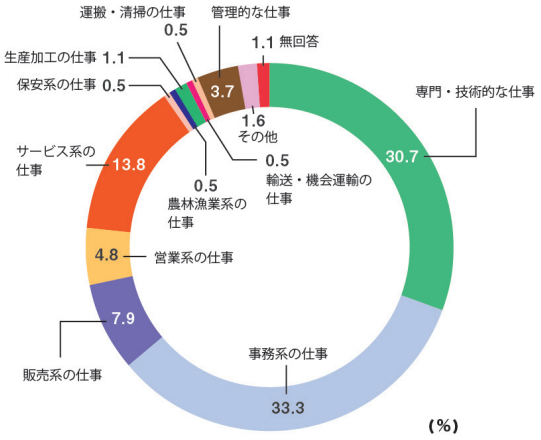


現在、就業中の卒業生が81.1%で（③）、その内の３割ずつが「専門・技術的な仕事」と「事務系の仕事」に従事していた（④）。

③ 現在、仕事についているか（N=233）



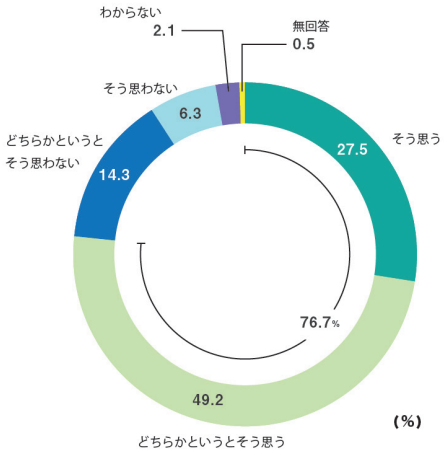
④ 現在の仕事の内容（n=189）
※現在、仕事についている人のみ



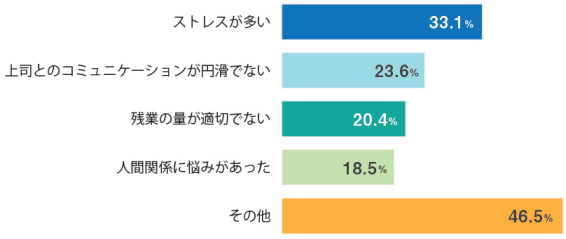
現在就業中の 189 名のうち、「全体的に働きやすい職場である」について、「そう思う」または「どちらかというそう思う」と回答した割合は 76.7％であった（⑤）。

⑥は、初職を退職した 157 名（67.4%）の退職した理由である。最も多かった「その他」（46.5％）の内訳は、結婚・出産のため、キャリアアップのため、職場への不満があったため、契約関係、体調・心の不調関係などであった。本調査において、結婚していた方は 125 名（53.6％）、子どもがいた方は 103 名（44.2％）であった。

⑤ 全体的に働きやすい職場である（n=189）



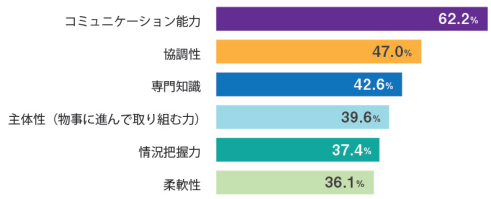
⑥退職した理由（n=157）※初職退職者のみ



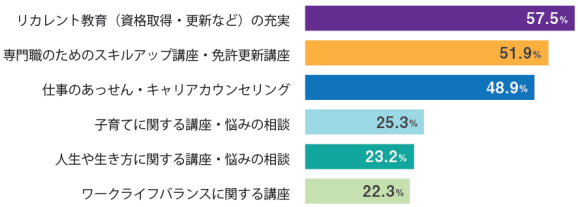
就労経験のある 230 名に「最初の勤務先で必要とされた能力やスキル」を尋ねたところ、「コミュニケーション能力」に次いで、「協調性」、「専門知識」、「主体性（物事に進んで取り組む力）」を選択した人が多かった（⑦）。

また、回答者全員に「必要だと思う『卒業生への支援』」を尋ねたところ、「リカレント教育（資格取得・更新など）の充実」や「専門職のためのスキルアップ講座・免許更新講座」が求められており、卒業してからも学び続けたいという意欲が感じられた（⑧）。一方で、「仕事のあっせん・キャリアカウンセリング」、「子育てに関する講座・悩みの相談」、「人生や生き方に関する講座・悩みの相談」が求められていることから、キャリアを継続していくために適切な相談先が必要であることが示唆された。

⑦ 最初の勤務先で必要とされた能力やスキル（n=230）
（上位６項目）
※就労経験がある人のみ (複数選択)



⑧ 必要だと思う「卒業生への支援」（N=233）
（上位６項目）(複数選択)



以上の結果から、本学の卒業生は、卒業後 7 年～ 16 年経過しても 80% 以上が働いており、その内 75% 以上が働きやすい職場であると感じていることが明らかとなった。一方で、65% 以上が初職退職に至っていることからも、初職で必要とされる能力やスキルを身につけるプログラムの開発と共に、卒業後も一人ひとりの人生に寄り添う継続的な支援が必要であることが示された。

(4) 2018 年度紀要論文抄録

【抄録】女子大学・女子短期大学における就業継続支援システムの構築に向けた予備的研究
―在学生・教職員・卒業生に対するキャリアについてのアンケート調査結果―

加藤千恵・吉田咲子・小山理子・関めぐみ・藤谷ゆう

Ⅰ　はじめに

本稿では、女性の就業継続の促進要因と阻害要因を明らかにし、就業継続を支援するための仕組みを構築するうえでの知見を提示することを目的とする。

Ⅱ　女性のキャリア開発研究について

1　女子大学の役割と他大学の動向

2　女性キャリア開発研究センター開設経緯と役割

本学で、女子学生のキャリア教育を正課として開始したのは 2005 年度のことである。当初は自由科目（卒業単位に含めない科目）としてキャリア教育を開始し、これを 2007 年度には全学共通科目とした。

学園組織としても京都の女子大学の意義として、女性のキャリア開発研究を推進しており、関西初の「女性キャリアに関する研究施設」の構想を計画していた。この結果、2016 年 4 月に、本学の正式組織として「女性キャリア開発研究センター」の開設に至った。

センター開設から 3 年目となる 2018 年度の主な取組事業としては、①女性のための就業継続支援システムの構築、②男女共同参画視点の減災リーダー育成プログラムの開発、③在学生のキャリア教育、④女子大学連携のためのネットワーク構築、をおこなっている。本稿では特に①女性のための就業継続支援システムの構築に焦点を当て、その内容を検討していく。

Ⅲ　アンケート調査結果の分析および考察

女性キャリア開発研究センターでは、本学の在学生、教職員、卒業生の現状を把握するために、これまで 4 回のアンケート調査を実施してきた。表 1 は、その概要である。

以下では、これまでの調査結果をもとに分析・考察をすすめる。

表 1　実施アンケート調査一覧

	調査期間		調査対象		調査名	対象者数	回収数	回収率
1	2016年度	2016年12月～2017年1月	在学生	大学生（1～4年）・短大生（1・2年）	「職業意識に関するアンケート調査」	1792	1506	84.0%
2	2016年度	2017年3月	教職員	光華女子学園（院・大・短・高・中・小・幼）に勤務する教員（常勤）、職員（常勤・非常勤）	「職場環境に関するアンケート調査」	315	158	50.2%
3	2017年度	2017年12月～2018年1月	卒業生	卒業後2年～5年（2013年3月卒～2016年3月卒）の京都府在住（実家含む）・関東圏（東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・静岡）在住の卒業生	「卒業後のキャリアに関するアンケート調査」	829	75	9.0%
4	2018年度	2018年4月	在学生	大学生（1・2年）・短大生（1・2年）	「職業意識に関するアンケート調査」	1177	921	78.2%

1　就業継続意識

（1）就業継続意識全体の傾向

女性が職業をもつことに対する意識について、在学生（2016 年度、2018 年度）、卒業生（2017 年度）、女性教職員（2016 年度）の結果を内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2016 年度）（以下「内閣府調査」）の結果と併せて図 1 に示す。

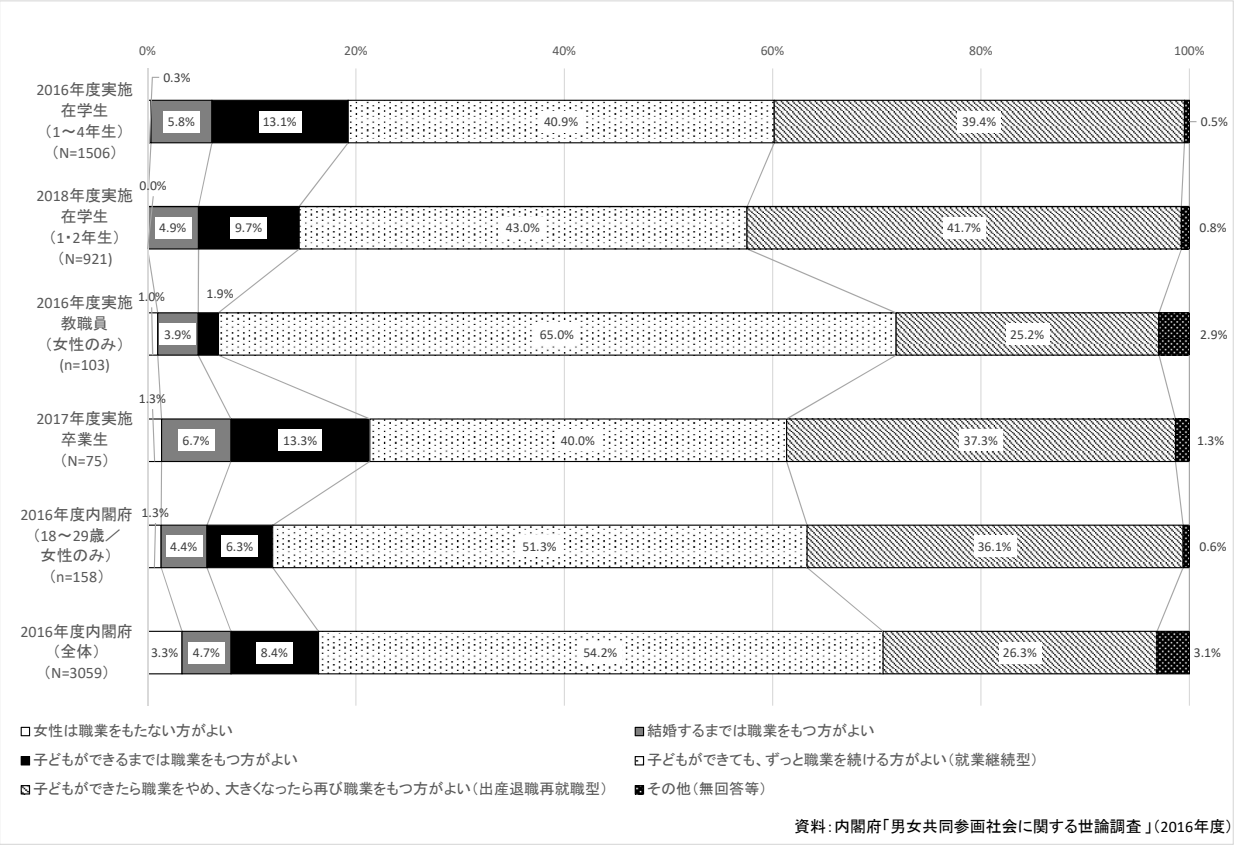


図 1　女性が職業をもつことに対する意識

内閣府調査の結果によると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい（以下「就業継続型」）」を選択した割合が最も高く、調査対象者全体では 54.2%、18 歳〜 29 歳の女性に限定した場合は 51.3% であった。次いで、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい（以下「出産退職再就職型」）」を選択した割合が高かった。

在学生および卒業生もまた、「就業継続型」を選択した割合が最も高く、次いで、「出産退職再就職型」を選択した割合が高かった。しかしながら、内閣府の調査と比較するとその割合はやや低く、一般的に高い就業継続意識を持っているとは言い難いことが明らかとなった。

女性教職員においては、「就業継続型」（65.0%）と「出産退職再就職型」（25.2%）を合わせると 90.2% であった。この割合は、調査対象者が、現在就業中の女性に限定されているという偏りはあるものの、内閣府の調査と比較して高く、高い就業継続意識を持っている傾向にあることが明らかとなった。

（2）就業継続意識に関する学科の意見

調査結果に対して、各学科から、職業観の醸成をサポートする必要性が示された。加えて、女性が生涯働き続けることを念頭においたキャリア教育の必要性も示された。

さらに、学科での教育やカリキュラムの見直しの必要性も指摘された。その方向性については、看護師や教員免許といった職業に直結する「専門職系の学科」と、学生の多くが一般企業や官公庁に総合職・一般職として就職する「非専門職系の学科」では相違が見られた。専門職系の学科では、資格取得支援の強化についての意見が述べられた。非専門職系の学科においては、キャリア教育の充実についての意見が述べられた。

（3）「就業継続型」と「出産退職再就職型」の違いの検討―クロス表に基づく分析

女性の就業継続意識に影響を与えている要因を探るために、在学生（2016 年度）と女性教職員（2016 年度）の結果について、クロス集計表に基づく分析をおこなった。

「就業継続型」の特徴として、性役割意識が弱く、経済的自立意識が強いことが明らかとなった。特に、現在就業している女性教職員においては、この傾向が顕著であった。今回の調査結果から、「性役割意識を弱めること」と「経済的自立意識を高めること」が就業継続支援のポイントになることが示唆された。

（4）在学生の意識の変化

本学の在学生の就業継続意識について、2016 年度調査と 2018 年度調査の 1・2 年生の結果を比較した。その結果、本学の学生は、女性が生涯働き続けることを念頭においた職業継続意識や、家庭の性役割意識における男女平等の意識は、上昇傾向にあった。一方、職業観や将来性については、あまり変化がみられなかった。

「自分は将来、社会的に活躍できると思う」については、「そう思う」「どちらかというとそう思う」と回答した割合が、2018 年度調査では 2016 年度調査と比べて、3.8 ポイント下降し、「わからない」と回答した割合が 8.7 ポイント上昇した（図 2）。

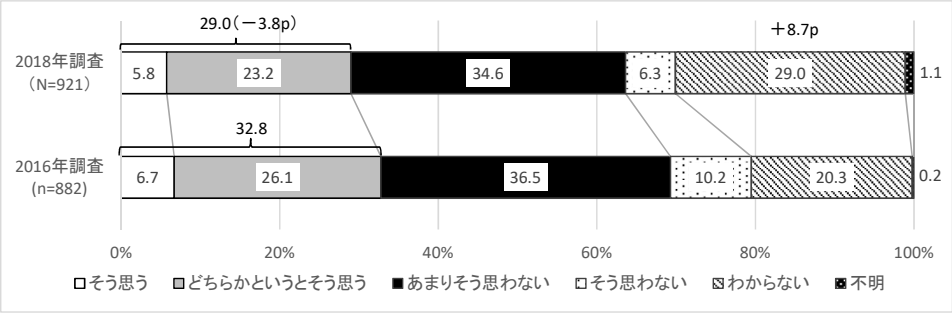


図 2 【在学生（1・2 年生のみ）】自分は将来、社会的に活躍できると思う

以上の結果から、本学の在学生は、働き続けたいと考えてはいるものの、積極的な職業観が醸成できておらず、今の自分さらには将来の自分に自信を持てない学生が増加する傾向にあることが明らかとなった。

2　職場環境

（1）教職員の意識と学科の意見

本学教職員に、男女ともに働きやすくなるために必要なものについて 25 項目の選択肢から選んでもらった（複数選択）。上位 8 項目の結果を図 3 に示す。

教職員の中でも就学前の子どもがいる 11 人に限ると、上位 8 項目を選択した割合がより高くなっている。特に、「育児・介護等による退職者の再雇用制度」、「マイカー使用」、「休業・休暇の取りやすさ」、「学内保育施設」については教職員全体よりも 20 ポイント以上高くなっており、育児が身近にある当事者の声として無視できない。

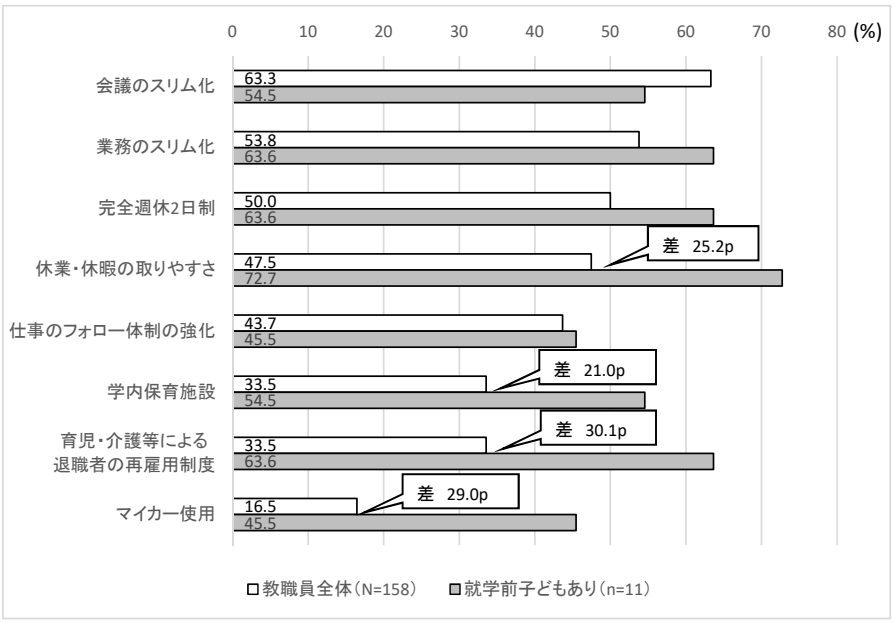


図３ 【教職員】男女ともに働き続けやすくなるために必要なもの（上位８項目）

この調査結果に対して、各学科からは、「会議のスリム化・業務のスリム化等、要望が高かった項目については全学的に検討をする必要があると感じる」、「何が必要で、何が無駄なのかを分析し、早急に対処が必要。効率よく仕事を進めることが、課題となっている残業や休暇等の問題の解決にもつながる」という意見があった。

（２）卒業生の意識と初職継続

本学卒業生にも、同様の問いを設定し、学園に特有な項目を除いた 21 項目の選択肢から選んでもらった（複数選択）。上位８項目の結果を図４に示す。女性教職員と比較して卒業生の方が高かった項目は、「休業・休暇の取りやすさ」、「残業時間の抑制」、「ノー残業デーの定着」であった。

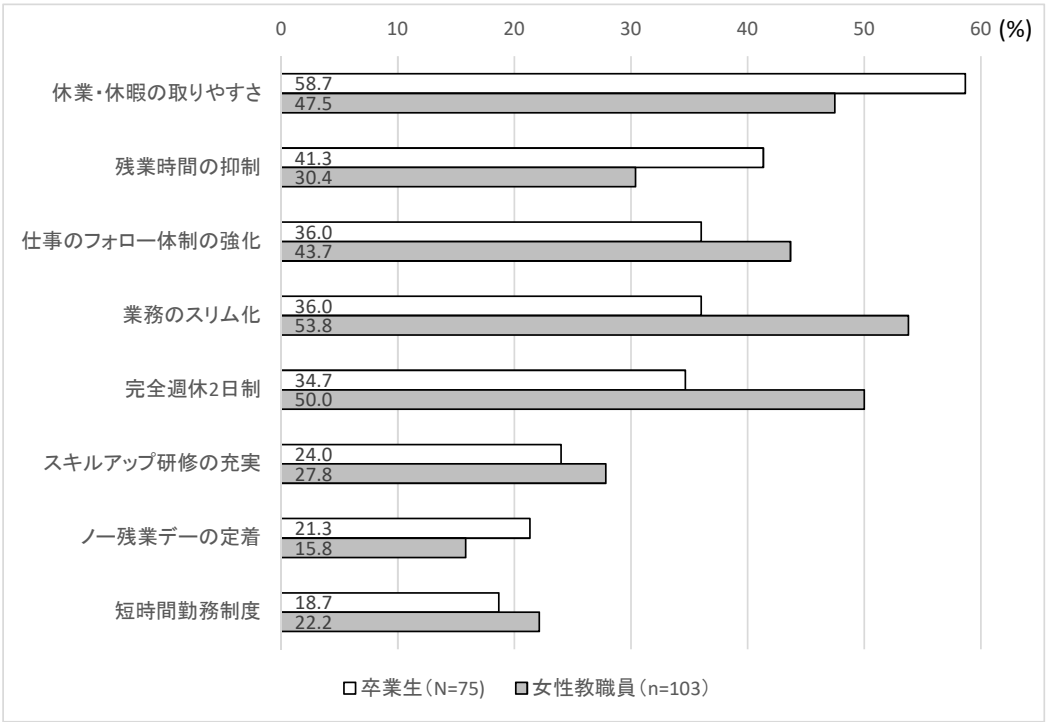


図４ 【卒業生・女性教職員】男女ともに働き続けやすくなるために必要なもの（上位８項目）

図５は、初職を退職した25名の退職した理由である。「ストレスが多い」(52.0%)が最も高く、次いで「人間関係に悩みがあった」(36.0%)、「その他」(36.0%）であった。「その他」の中身は、「さらなるスキルアップのため」、「働きたい場所から求人があったため」といったポジティブな理由と「ケガ、体調不良」、「職場の人全体的に能力が低い」といったネガティブな理由のほかに、「雇用契約期間満了」、「結婚に伴い、勤務が不可能なところへ引っ越ししたため」などがあった。

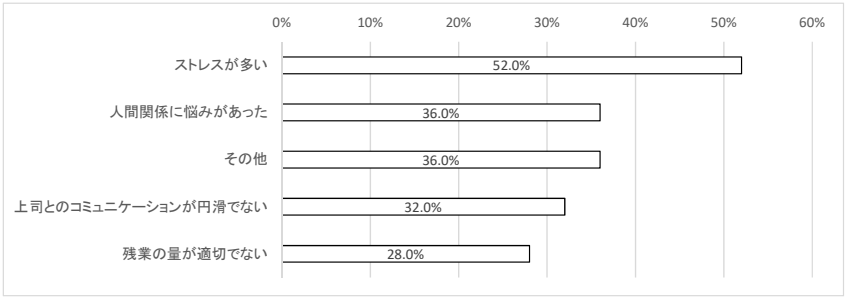


図５ 【卒業生（初職退職者 n=25)】退職した理由

３　サポート体制

（１）在学生にみる卒業後も大学にサポートを期待するかの傾向

卒業後のサポートを希望する学生(1･2 年生)の割合は、2016 年度調査では 50.0%、2018 年度調査では 56.3%となり、6.3 ポイントの増加であった (図６)。この結果は、本学への信頼度が上がってきていると考えるべきか、学生の自立心や自信が減退していると考えるべきか、今後の学生意識を観察する必要がある。

また、2016 年度調査（1 ～ 4 年生）を学科別にグラフ化した（図７)。今後、実際にどのようなサポートを期待しているかを明確にする必要がある。

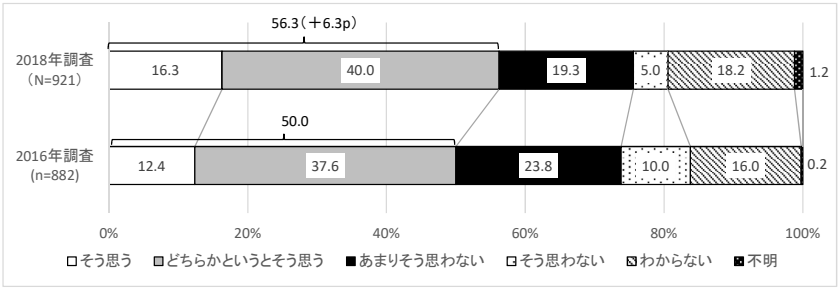


図６ 【在学生（1・2 年生のみ)】卒業後も大学にサポートしてほしい

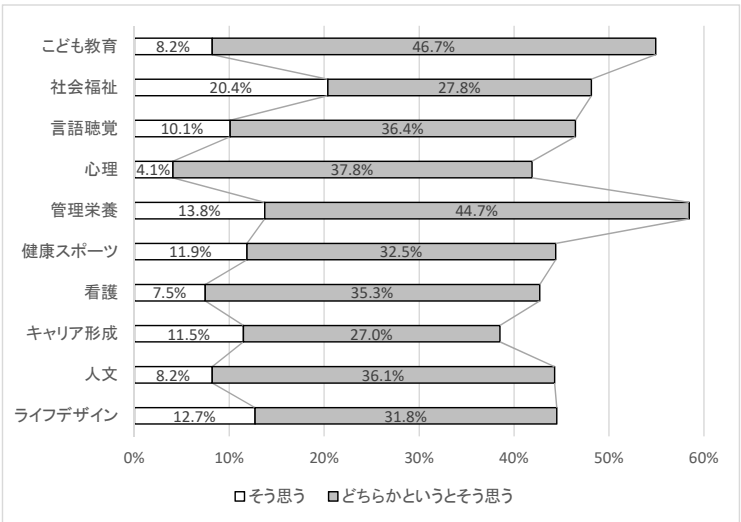


図７ 【2016 年度在学生 (N=1506)】卒業後も大学にサポートしてほしい割合（学科別）

（2）卒業生からみた「必要だと思う卒業生への支援」

卒業生調査での「必要だと思う卒業生への支援」の結果を図 8 に示す。この結果では、「専門職のためのスキルアップ講座・免許更新講座」の割合が最も高く、42.7％が必要と回答している。次いで多いのは、「リカレント教育（資格取得・更新など）の充実」（38.7％）、「仕事のあっせん・キャリアカウンセリング」（37.3％）であった。

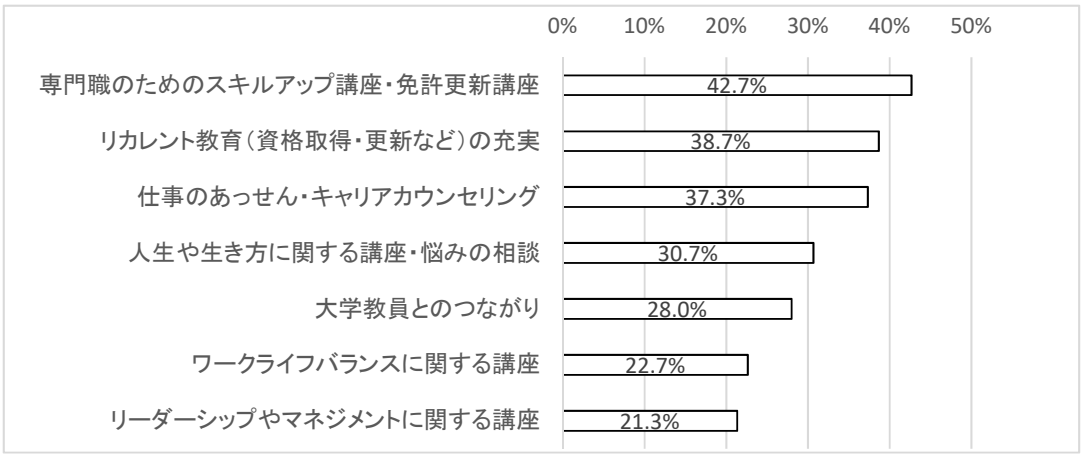


図 8 【卒業生（N=75）】必要だと思う「卒業生への支援」

（3）資格取得・更新や卒業後のサポートに関する学科の意見

専門職系の学科としては、まずは資格取得が最重要の目標である。全国合格率の低い資格に対しては、既卒者の国家試験対策についてもサポートが必要との考えであった。

非専門職系の学科では、内閣府の調査に比べて就業継続型を選択する在学生が少なかったことの要因に触れ、現代日本社会における「育児と職業の両立の難しさ」や「子どもと過ごせる時間を十分にとりたい」という意識の反映とも捉えられることが示された。

卒業後のサポートに関しては、専門職系と非専門職系で必要なサポートの期待が違う。しかしながら、専門職系の学科の卒業生だからと言って必ず専門職に従事しているわけではなく、転職の結果、一般企業で従事する可能性も高い。そのため、企業などで働く卒業生に対しては、全学組織である女性キャリア開発研究センターが卒業生サポートに関する管理運営を統括することが求められる。

Ⅳ　おわりに

まとめとして、今回の調査から見えてきた課題をふまえ、就業継続支援システム構築に向けた具体的な提案を 3 点示す。

1 点目は、すでに実施している「科目等履修制度」を周知・拡大し、専門職のためのスキルアップ講座・免許更新講座やリカレント教育として機能するよう整備することである。

2 点目は、女性キャリア開発研究センターで在学生向けに実施しているキャリアカウンセリングを卒業生向けに開くことである。

3 点目は、ラーニングコミュニティ学 Booo を卒業生に向けて開放することである。

これら在学生と卒業生向けの支援に加えて重要なのは、教職員への支援である。学生にとって身近な職場であり、ロールモデルとなる大人がいる大学において、女性だけでなく就学前の子どもがいる教職員、また付き添いなど支援の必要な家族がいる教職員など、多様な人が働き続けることができる環境を整えることが求められている。

同時に、教職員をはじめ大学全体で、女性のキャリアについて「仕事をずっと続ける」ということが基本方針であることを徹底する必要がある。女性が働くことに積極的な考えで学生に接することが、学生や卒業生への就業継続に寄与すると考える。

(5) 2019 年度紀要論文抄録

【抄録】女子大学・女子短期大学における就業継続支援システムの構築に向けた予備的研究（2）
―卒業生を対象としたキャリアについての調査結果（卒業後 5 年以内の状況）―

加藤千恵・吉田咲子・小山理子・関めぐみ・藤谷ゆう

Ⅰ　はじめに

本稿では、女性の就業継続の促進要因と阻害要因を明らかにし、就業継続を支援するための仕組みを構築するうえでの知見を提示することを目的とする。第 1 報では、本学および光華女子学園で実施した、在学生、教職員、卒業生に対するキャリアについてのアンケート調査結果をまとめた。第 2 報となる本稿では、卒業後 5 年以内の卒業生に対するアンケート調査およびヒアリング調査の結果をまとめる。

Ⅱ　調査概要

本学女性キャリア開発研究センターでは、女性の就業継続支援システムの構築に取り組むにあたり、「卒業生のキャリアに関する調査」を実施している。第 1 弾としては、卒業後 2 年～ 5 年（2013 年 3 月～ 2016 年 3 月卒業）の卒業生に対して、2017 年度にアンケート調査を行い、2018 年度にヒアリング調査を実施した。第 2 弾としては、卒業後 7 年～ 16 年（2003 年 3 月～ 2012 年 3 月卒業）の卒業生に対して、2019 年度にアンケート調査とヒアリング調査を実施する予定である。本稿では、この第 1 弾の調査結果をもとに分析・考察を進める。

2017 年度に実施したアンケート調査は、卒業後 5 年以内の京都在住（実家含む）・関東圏（東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬・静岡）在住の本学卒業生、計 829 名を対象とした。調査期間は、2017 年 12 月～ 2018 年 1 月、回収者数は 75 名、回収率は 9.0％であった。2018 年に実施したヒアリング調査は、このアンケート調査の回答者 75 名のうち、ヒアリング協力の申し出をしていただいた 25 名の方々の中から、勤務地や職種等を勘案し 15 名（本学 7 専攻より各 2 ～ 3 名）の卒業生の方に対して実施した。調査期間は、2018 年 5 月～ 8 月であり、その後 2018 年 10 月～ 12 月にかけて女性キャリア開発研究委員会で研究会を 8 回実施した。

アンケート調査およびヒアリング調査を分析した結果、卒業した学科によって異なる傾向が見られたため、本学 4 学部 7 学科（こども教育学部の「こども教育学科」、健康科学部の「医療福祉学科（社会福祉専攻、言語聴覚専攻）」、「心理学科」、「健康栄養学科（管理栄養士専攻、健康スポーツ栄養専攻）」、「看護学科」、キャリア形成学部の「キャリア形成学科」、短期大学部の「ライフデザイン学科」）のうち、こども教育学部と健康科学部の卒業生を「専門職志向」、それ以外の卒業生を「非専門職志向」として、分析を行った。

本調査では匿名性を確保し、倫理的配慮を行った。

Ⅲ　調査結果

1　アンケート調査結果

まずは、アンケート調査結果を示す。回答者 75 名のうち、90％以上が 27 歳以下であり、約 95％が仕事に就いていた。「専門職志向」は 36 名（48.0％）、「非専門職志向」は 39 名（52.0％）であった。

（1）現在の勤務先について

現在、仕事に就いている「専門職志向」の 34 名と「非専門職志向」の 37 名に着目する。

まず、就業形態について、「正社員・正職員」の割合は、「専門職志向」82.4％、「非専門職志向」73.0％で、「専門職志向」の方が 9.4 ポイント高かった。

次に、「現在のあなたの仕事について」尋ねた 24 の設問に着目する（図 1）。

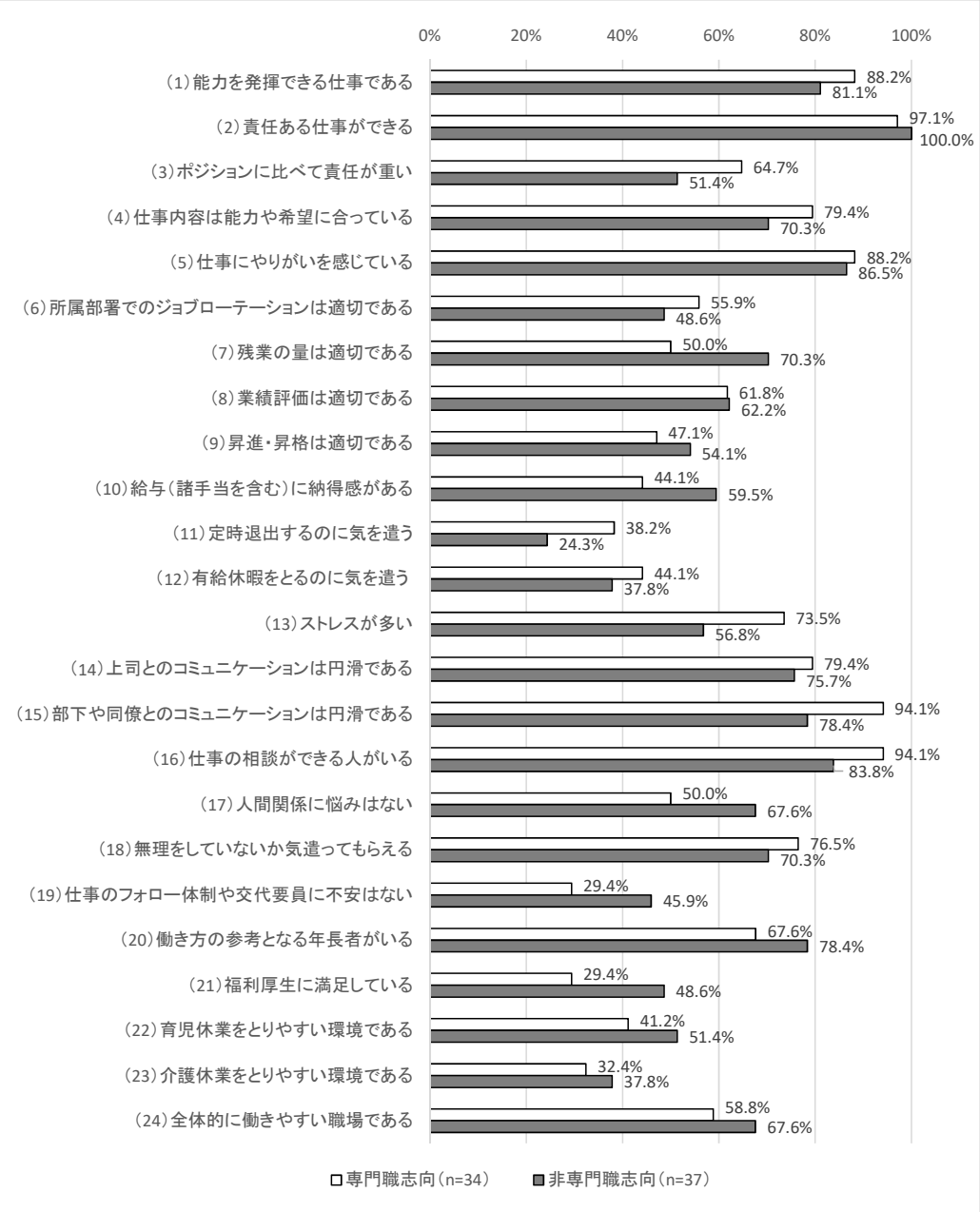


図 1 「現在のあなたの仕事について」（「そう思う」＋「どちらかというとそう思う」の計）

（2）退職した理由

次に、退職した理由について確認する（図 2）。働いた経験のある「専門職志向」36 名中 12 名（33.4％）、「非専門職志向」38 名中 13 名（34.2％）が退職を経験していた。

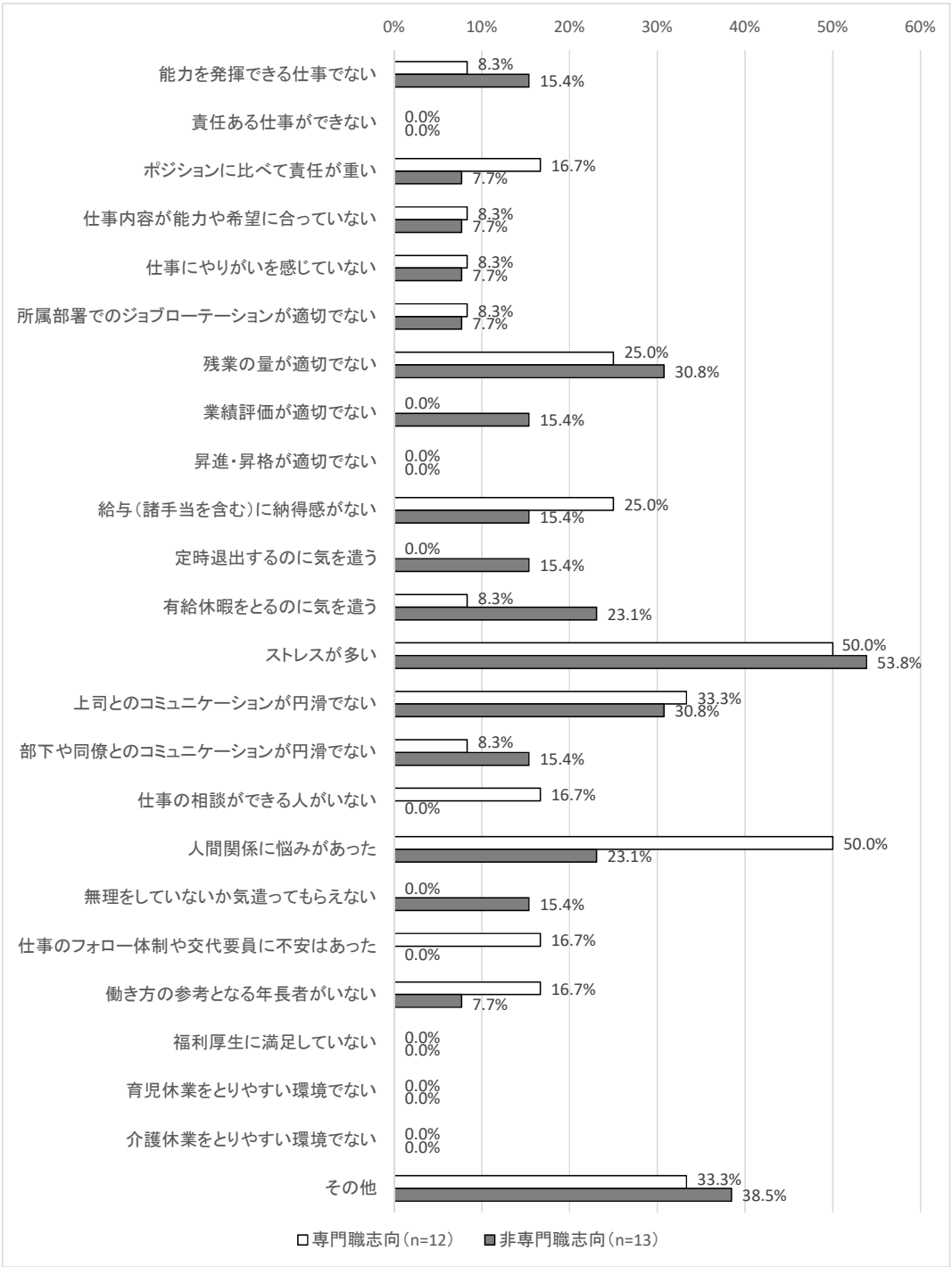


図 2　退職した理由

（3）能力やスキルについて

「最初の勤務先で必要とされた能力やスキルの中で、重要だと思われるもの」と「大学時代に身につけた能力やスキルの中で、重要だと思われるもの」を比較すると、特に、「専門職志向」の「ストレスをコントロールする力」が求められていることがわかる（図 3・図 4）。また、「専門職志向」と「非専門職志向」の両方で、「コミュニケーション能力」と「柔軟性」が求められていることがわかる。

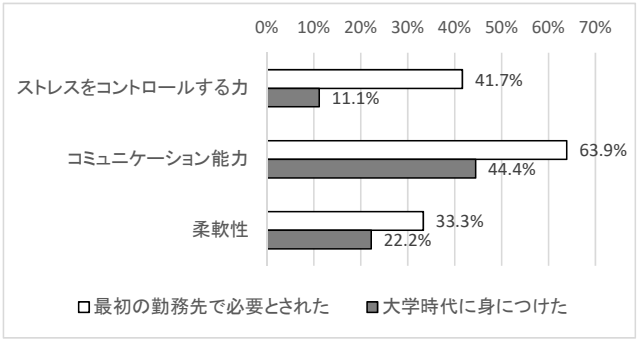


図 3 【専門職志向（n=36）】
能力やスキルについて（差が大きかった項目）

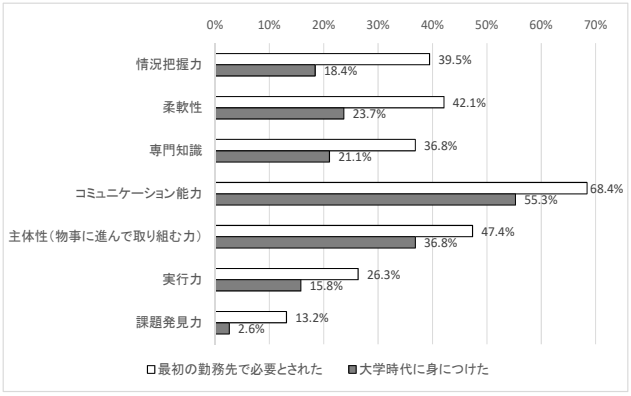


図 4 【非専門職志向（n=38）】
能力やスキルについて（差が大きかった項目）

（4）求められる卒業生への支援

必要だと思う「卒業生への支援」を尋ねた結果、「専門職志向」では、就職後もスキルアップの必要性を感じており、「非専門職志向」では転職サポートを見据えた支援を検討する必要があると考えられる。

（5）女性が職業をもつことに対する意識

女性が職業をもつことに対する意識について、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい（以下「職業継続型」）」と考える「専門職志向」は 41.7%、「非専門職志向」は 38.5%であった（図 5）。内閣府（2016）の 20 ～ 29 歳女性の調査結果（n=127）が、50.4%であったことと比較すると、本学の卒業生は 10 ポイント前後低い傾向にある。

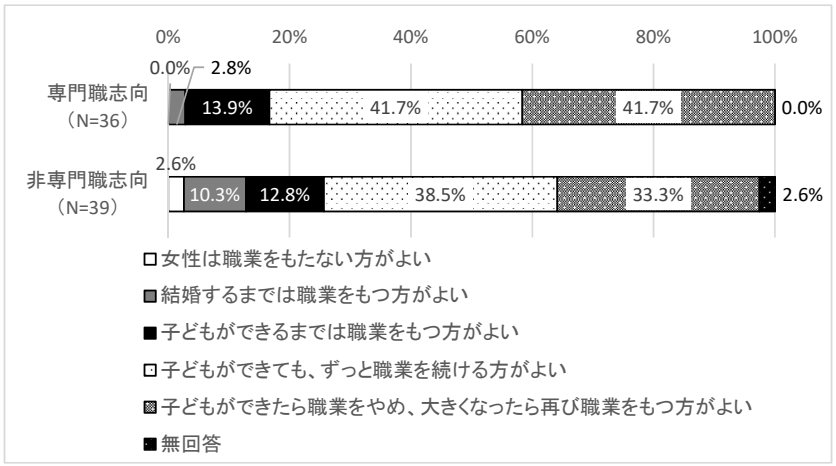


図 5　女性が職業をもつことに対する意識

2　ヒアリング調査結果――就業継続の促進要因と阻害要因

次に、ヒアリング調査結果を示す。表 1 は調査対象者一覧であり、表 2 は分析対象の分類である。ここでは、アンケート調査で尋ねた「現在のあなたの仕事について」の 24 の設問（図 1）を中心に、「専門職志向」と「非専門職志向」の就業継続の促進要因と阻害要因について確認する。その際、「全体的に働きやすい職場である」に「そう思う」（「そう思う」＋「どちらかというとそう思う」）と回答したかどうかで、「働きやすい職場」と「働きにくい職場」に分類して検討した。

表 1　ヒアリング調査対象者一覧

	卒業学科	資格	就業形態	業種	職種	勤続年数	退職
A	専門職志向	幼稚園教諭	正社員・正職員	教育・学習支援業	幼稚園教諭	2	―
B		幼稚園教諭	正社員・正職員	教育・学習支援業	幼稚園教諭	2	―
C		（社会福祉士取得希望）	正社員・正職員	医療・福祉	事務職	2	―
D		臨床心理士	非正社員・非正職員	教育・学習支援業	スクールカウンセラー	2	経験有
E		管理栄養士	契約社員	その他のサービス	販売職	2	検討中
F		管理栄養士	パート・アルバイト	小売業	販売職	0	経験有/検討中
G		看護師	正社員・正職員	医療・福祉	看護職	2	―
H		看護師	正社員・正職員	教育・学習支援業	大学助手	0	経験有
I	非専門職志向	―	正社員・正職員	小売業	販売職	5	―
J		―	正社員・正職員	情報通信業	販売職	3	予定
K		―	正社員・正職員	その他（製造から販売まで一貫して）	販売職	4	―
L		―	正社員・正職員	卸売業	事務職	3	予定
M		―	正社員・正職員	情報通信業	営業補助職	2	―
N		（社会福祉士取得希望）	正社員・正職員	医療・福祉	生活支援員	2	―
O		―	パート・アルバイト	医療・福祉	ケアワーカー	1	経験有

表 2　分析対象の分類

	専門職志向	非専門職志向
働きやすい職場	A・B・C・E・H	I・K・M・N
働きにくい職場	D・F・G	J・L・O

※ F については、転職前の専門職としての分析を行った。

（1）働きやすい職場における就業継続の要因

①「専門職志向」の場合

②「非専門職志向」の場合

（2）働きにくい職場における就業継続の要因

①「専門職志向」の場合

②「非専門職志向」の場合

（3）退職理由にみる就業継続の阻害要因

3　アンケート調査とヒアリング調査のまとめ

以上、アンケート調査とヒアリング調査の結果を示してきたが、その結果を概観したい。

まず、アンケート調査で「現在の勤務先について」尋ねた結果、「専門職志向」の方が「非専門職志向」と比べ、就業継続の促進要因が少なく、阻害要因が多い傾向があることがわかった。また、「専門職志向」の退職した理由としては、人間関係の悩みや相談相手がいないことが挙げられていた一方、「非専門職志向」では業績評価が適切か、時間通りに帰ることができるか、休みがとりやすいか、といった人事制度に関することが挙げられていた。最初の勤務先で必要とされた能力やスキルと、大学時代に身に付けた能力やスキルの差については、「専門職志向」「非専門職志向」の両方で、「コミュニケーション能力」と「柔軟性」が不足していたことが明らかとなった。そして、特に「専門職志向」において「ストレスをコントロール力」が求められていた。必要だと思う「卒業生への支援」からは、「専門職志向」「非専門職志向」の両方で、学びなおしたいという意欲と仕事探しの支援のニーズがみえてきた。本学の卒業生は、内閣府の調査と比べ「職業継続型」の考えは低かったが、「専門職志向」「非専門職志向」の両方で約 4 割は働き続けたいと考えていた。

次に、ヒアリング調査では、「専門職志向」の場合に、「能力を発揮できる仕事である」「責任ある仕事ができる」「仕事にやりがいを感じている」「仕事の相談ができる人がいる」ことが就業継続促進要因となっており、また、「資格を生かせること」も促進要因であることがわかった。能力や資格を生かすことができている場合には、働きにくい職場においても就業を継続しているが、生かすことができていない場合には、働きやすい職場でも転職を考えていた。さらに、調査時に阻害要因として設定していた「ポジションに比べて責任が重い」という項目について、「専門職志向」の場合には促進要因となる可能性が示唆された。「非専門職志向」の場合は、「責任ある仕事ができる」「仕事にやりがいを感じている」点に加え、時間通りに帰ることができるか、休みがとりやすいか、といった人事制度に関すること、そして、組織内のコミュニケーションが円滑で、相談ができたり、働き方の参考にできるような人間関係があることが就業継続の促進要因となっていた。一方、「ポジションに比べて責任が重い」「有給休暇を取るのに気を遣う」「ストレスが多い」という阻害要因があり、かつ、「自分の成長が感じられない」と考えている場合、「責任ある仕事ができる」状況でも就業の継続が困難であった。

最後に、アンケート調査とヒアリング調査を合わせて検討した結果から、「職業継続型」の考えを持つ退職者に着目した場合には、「ストレス」と「人間関係」が大きな阻害要因となっていることが明らかとなった。また、「職業継続型」の考えを持つ初職継続者に着目した場合には、「責任ある仕事ができる」「仕事にやりがいを感じている」という仕事に対するモチベーションと、「仕事の相談ができる人がいる」「働き方の参考となる年長者がいる」という人間関係のある職場で働いていることがわかった。

Ⅳ　考察

1　「現在のあなたの仕事について」の項目間の相関分析

2　「専門職志向」卒業生にみる課題

3　「非専門職志向」卒業生にみる課題

Ⅴ　おわりに

これらの結果から、学生の初職継続意識の向上や卒業生支援に必要な大学ができる仕組みとして、以下の 3 点が考えられる。1 点目は、学生時代から長期的なスパンでキャリアや将来像を描く習慣を身につけさせることである。2 点目は、職場で苦悩を抱える前や退職を考える前に気軽に相談ができる場の提供である。3 点目は、学び直しの機会の提供である。

1　ロールモデルの提示

2　卒業生のためのキャリア相談

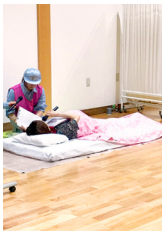
3　学び直しの機会の提供

Ⅱ. 減災リーダー育成プログラムの開発

(1) 情報収集・事例研究

男女共同参画視点の減災リーダー育成プログラムの開発は、本学の校訓「真実心＝慈悲心」と、本学の学科・専攻の専門性を活かした新たな取組である。全国的に災害リスクが高まるなか、自治体、本学の各学科・研究所・センターが連携し、本学の人的資源・物的資源を活用した減災に取り組む手法の開発に向けて研究を進めている。

視察 **「令和元年度京都市総合防災訓練 妊産婦等福祉避難所設置・運営訓練」**



日　時：2019年8月31日（土）9：00～11：30
場　所：京都看護大学
概　要：京都市内で地震が発生したことを想定し、市民の方も参加して避難所の設置・運営訓練が行われた。昨年本学で開催された際と同様に、シナリオが用意されており、京都市との連絡・連携、妊産婦の受け入れ体制の確認や健康調査などが行われた。

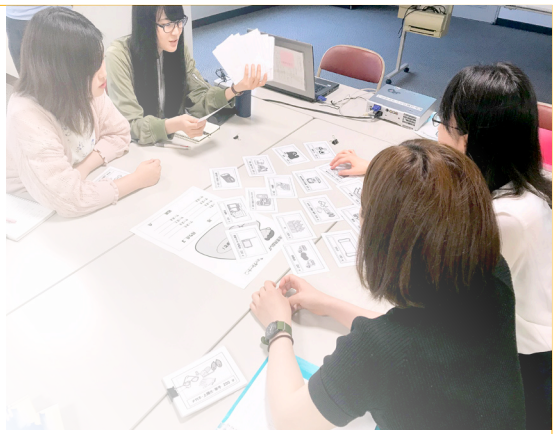
(2) 減災リーダー育成

各学科の特色を活かした男女共同参画視点の減災リーダー育成をめざし、2019年4月に「京都光華防災サークルDaisy」が発足し、21名の学生が参加している。これらの活動を通じ「男女共同参画視点の減災リーダー育成」、および民間団体や行政機関など多様な団体が協働して防災の取り組みを行うことのできる地域連携の拠点となることを目指す。

京都光華防災サークル Daisy

2019年度活動内容

5月



視察 **「令和元年度右京消防団総合査閲」**

日　時：2019年5月19日(日) 8:00～10:30
場　所：京都市立嵯峨中学校　西グラウンド
主　催：右京消防団
概　要：右京消防団24分団626名の消防団員が、地域の防災リーダーとして日々研鑽している訓練の成果を披露しあっていた。

体験 **「防災ゲーム MUG（持ち出し袋運用ゲーム）」**

日　時：2019年5月28日(火)16:00～17:30
場　所：宇治市役所　うじ安心館
主　催：宇治市　危機管理室
概　要：宇治市の職員が開発した防災ゲーム「MUG(持ち出し袋運用ゲーム)」を体験し、非常時に実際に必要なものは何かを判断する力を養った。また、宇治市での防災の取り組みについても教えていただいた。

6月

体験　**「腕輪念珠づくり」**

日　時：2019年6月5日(水)16:00～17:00
場　所：本学　1号館1階セミナールーム
主　催：京都光華防災サークル Daisy
概　要：女性の自立支援やコミュニケーションの一つとして被災地ではミサンガづくりが実施されている。真宗大谷派の学校であるという本学の特徴を生かし、「お念珠づくり」を体験した。今後被災地などで実施していきたい。

視察　**「光華幼稚園避難訓練」**

日　時：2019年6月24日(月)10:30～11:30
場　所：光華幼稚園
主　催：光華幼稚園、右京消防署
概　要：園内で火災が発生したことを想定し、教員と一緒に園庭へ避難する練習が行われた。その他、教員の消火器訓練、防火服の早着替えやはしご車からの消火などが披露された。

7月

参加　**「普通救命講習」**

日　時：2019年7月7日(日) 9:30～12:00
場　所：右京消防署
主　催：本学、右京消防署
概　要：最初に消防車の出動件数や電話後から到着するまでの時間、応急手当がなぜ必要なのか等の座学について学び、ロールプレイングで心肺蘇生法やAEDの使い方を実践的に学んだ。

視察　**「京都市市民防災センター」**

日　時：2019年7月21日(日) 13:00～16:00
場　所：京都市市民防災センター
主　催：京都光華防災サークル Daisy
概　要：震度4～7の地震体験や消火体験、ホテル火災を再現して煙の中を避難する体験など、様々な災害を疑似体験し、日頃の心構えや非常時の対応について学んだ。

京都光華防災サークル Daisy

2019 年度活動内容

10 月

体験 **「防災 BBQ クッキング」**

日　時：2019 年 10 月 19 日（土）11:00 ～ 15:30
場　所：ウィングス京都　調理コーナー
主　催：京都光華防災サークル Daisy
概　要：京都 BBQ 協会会長の森本隆氏を講師に招き、災害時にも簡単に作ることができるポリ袋を使った調理法を学んだ。また、楽しく学ぶことができるハザードマップゲームを体験し、ハザードマップの見方や注意点、災害時に危険な場所などについて教えていただいた。

11 月

参加 **「キッズ本格おしごと体験 防犯・防災編」**

日　時：2019 年 11 月 4 日 (月・祝) 9:00 ～ 17:00
場　所：イオンモール桂川
主　催：株式会社アミカル
概　要：日本防災士会京都支部と共同でブース出展し、防災かるたや防災紙芝居、お念珠作りをしながら防災相談への対応などを行った。パネル展示では、今年度の Daisy の活動報告や妊産婦の方の災害時非常袋の例などを掲示した。

参加 **「あかね祭」ブース出店**

日　時：2019 年 11 月 16 日 (土)11:00 ～ 17:00
　　17日 (日)11:00 ～ 17:00
場　所：本学
概　要：本学学園祭にて、アルファ化米のアレンジレシピの販売 (売上金は全て日本赤十字社の「平成 30 年 7 月豪雨災害義援金」に送金) や、縄の結び方や防災クイズ等のパネル展示、起震車体験 (右京消防署提供)、AED 体験 (日本防災士会提供) を行った。

(3) 京都学生 FAST

京都府には、「京都学生 FAST（Fire And Safety Team）」という府内の大学生消防防災サークルで構成された京都府公認の学生ネットワークがある。大学生の防災意識の向上と消防団の若手団員確保に向けた事業となっており、すでに 13 大学、約 400 名の学生がそれぞれの大学で活動している。本学も「京都光華防災サークル Daisy」が 2019 年度 4 月に加入し、活動を進めている。

「リアルガチな防災体験セミナー」

日　時：2019 年 8 月 3 日（土）9:00 ～ 16:00
場　所：京都市南消防署
概　要：京都市市民防災センターで強風・地震・消火体験をし、ディスカッションでは「防災について、できることは何か？」というテーマのもと、さまざまな視点から防災について考え、意見交換がされた。

「防災ゲーム・紙芝居読み聞かせ」

日　時：2019 年 8 月 23 日（金）
場　所：亀岡市七谷川野外活動センター
概　要：サマースクールの防災学習の時間に、防災かるたや防災紙芝居の読み聞かせを行った。

「京都府総合防災訓練」

日　時：2019 年 9 月 1 日（日）10:00 ～ 12:00
場　所：長岡京市立長岡第九小学校　体育館
概　要：京都府の乙訓地域における直下型地震及び豪雨による被害発生を想定し、市民の方も参加して避難所設置・運営訓練が行わた。本学メンバーは、妊産婦とキッズスペースを担当した。

「防災キャンプ 2019 in 中丹」

日　時：2019 年 11 月 2 日（土）～ 3 日（日）
場　所：NPO 法人里山ねっと・あやべ 他
概　要：自然災害に対する知識や災害時の対応等について学び、消防団員や防災に関わる方と意見交換会および団活動・防災バーベキューを体験した。

「京防災フェスタ 2019」

日　時：2019 年 11 月 30 日（土）11:00 ～ 16:00
場　所：梅小路公園芝生広場
主　催：京都学生 FAST 運営委員会
概　要：各大学のサークル活動の紹介や消防団の PR、府民の防災意識の向上を図るために、消防関係機関や企業、NPO 等と連携して実施した。

「福岡県内の大学生と意見交換会」

日　時：2019 年 12 月 1 日（日）10:00 ～ 14:00
場　所：京都府庁
主　催：京都学生 FAST 運営委員会
概　要：福岡県で消防・防災活動に取り組む大学生とそれぞれの活動紹介や意見交換会を行った。

「京都学生 FAST 合同活動報告会」

日　時：2019 年 12 月 21 日（土）9:00 ～ 16:30
場　所：京都ガーデンパレス　鞍馬の間（第 1 部）、京都市消防学校（第 2 部）
概　要：第 1 部では京都学生 FAST 認定式が行われ、本学と龍谷大学が新しく認定された。また、今年度の活動についても活動報告を行った。第 2 部では、京都学生 FAST 合同研修会として防災体験セミナーが行われ、火災・消火体験、地震体験、水害体験等を行った。

Ⅲ. 女子大学連携のためのネットワーク

2017 年度に開設された「京都アカデミアフォーラム in 丸の内」は、京都大学と本学を含む京都の 10 大学が連携協力して、京都の文化・芸術・科学について学術面から情報発信する拠点として誕生した。そこに参加する京都の３女子大学（本学 女性キャリア開発研究センター、京都女子大学 地域連携研究センター、同志社女子大学 女性アクティベーションセンター）が中心となり、全国の女子大学とともに、女子大学が取り組む課題などについて情報交換を行い、連携協力体制を構築している。

「女子大学連携ネットワーク」の趣旨

これからの女子大学が取り組む課題について、情報交換を行い、連携協力体制を構築していきます。日本の女子大学が果たす役割を共に考え、語り、発信し、学術的成果を提示するとともに、社会貢献の足がかりとしていきます。

(1) ミーティングの開催

第３回ミーティング

日　時：2019 年９月２日（月）14：00 ～ 17：00
場　所：京都アカデミアフォーラム in 丸の内

【タイムスケジュール】
14：00 第１部 開会挨拶・開催趣旨・幹事校紹介
　　講演①「管理栄養士養成課程の現状と課題」
　　講演②「文系女子大卒業者の社会参画への歩み」
16：20 第２部 今後の運営についての提案・意見交換

参加者：全国 21 大学より 34 名
概　要：第１部では、京都女子大学 中山玲子先生から「管理栄養士養成課程の現状と課題」、津田塾大学 田近裕子先生から「文系女子大卒業者の社会参画への歩み」についてお話しいただいた。第２部では、今後の運営体制について話し合われ、幹事校拡大のため、京都３女子大学に加え、大妻女子大学、和洋女子大学の５大学が幹事校となり、事務局を本学、また、ネットワーク代表を本学女性キャリア開発研究センター長の加藤千恵が務めることになった。

開催趣旨・幹事校紹介

第１部

第２部

(2) 国際女性デーシンポジウムの開催

日　時：2020年3月5日（木）13：30～17：30
場　所：大妻女子大学
定　員：100名（要申込）
テーマ：大学のガバナンスにおける女性の参画

【タイムスケジュール】
13：30 第1部　開会あいさつ
13：40 講演「英国における高等教育機関での女性の参画状況」
　　オックスフォード大学日本事務所代表アリソン・ビール
14：20 講演「女子大学のガバナンスを考える ―私たちは何を目指すべきか―」
　　東京女子大学現代教養学部教授・エンパワーメントセンター長 金野 美奈子
14：55 講演「女子大学における女性上位職・女性管理職の現状」
　　甲南女子大学文学部准教授 高橋 真央
15：35 第2部　全体討論
16：40～17：30 懇親会

概　要：女子大学の教育について語ることは多くても、職場としての女子大学について考える機会は少ない。ジェンダー平等達成度が低い日本において、女性キャリア形成を意識した教育が実践できる女子大学が、今後どのような意思決定プロセスを女子学生に見せていくのか。女子大学における女性上位職・管理職比率の実態から、大学ガバナンスの課題を考えるとともに女性の参画を促す方法を考える。

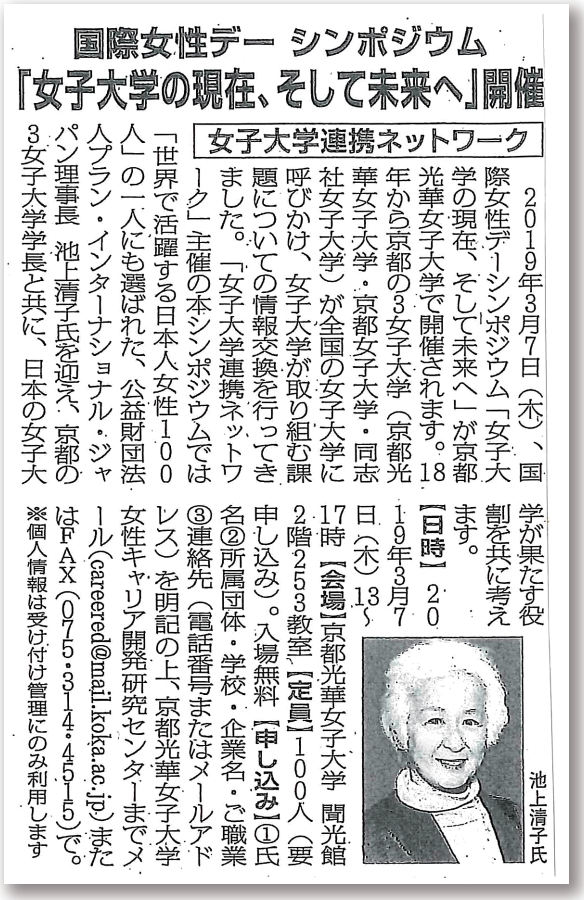
ポスター

セルフィーカード

プログラム

(3) メディア掲載 (2018 年度シンポジウム)

日　時：2019 年 3 月 7 日（木）13：00 ～ 17：00
場　所：本学　聞光館 2 階　253 教室
テーマ：「女子大学の現在、そして未来へ」



国際女性デー シンポジウム
『女子大学の現在、そして未来へ』開催

女子大学連携ネットワーク

2019年3月7日（木）、国際女性デーシンポジウム「女子大学の現在、そして未来へ」が京都光華女子大学で開催されます。18年から京都の3女子大学（京都光華女子大学・京都女子大学・同志社女子大学）が全国の女子大学に呼びかけ、女子大学が取り組む課題についての情報交換を行ってきました。「女子大学連携ネットワーク」主催の本シンポジウムでは「世界で活躍する日本人女性100人」の一人にも選ばれた、公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長 池上清子氏を迎え、京都の3女子大学学長と共に、日本の女子大学が果たす役割を共に考えます。

【日時】2019年3月7日（木）13～

【会場】京都光華女子大学 聞光館2階253教室

【定員】100人（要申し込み）。入場無料

【申し込み】①氏名②所属団体・学校・企業名・ご職業③連絡先（電話番号またはメールアドレス）を明記の上、京都光華女子大学女性キャリア開発研究センターまでメール（careered@mail.koka.ac.jp）またはFAX（075・314・4515）で。

※個人情報は受け付け管理にのみ利用します

池上清子氏

2019 年 2 月 18 日（月）朝日新聞
（夕刊・8 頁）

女子大学の果たす役割について討論する学長ら（京都市右京区・京都光華女子大）

「意見言える女性に」

女子大の未来考える

京の学長らシンポ 右京

女子大学の現状や未来について考えるシンポジウムが7日、京都市右京区の京都光華女子大で開かれた。京都の女子大の学長らが、学生の教育や教職員のキャリア形成上の課題について意見交換した。

男女格差の解消のために女子大ができることを考えようと昨年発足した「女子大学連携ネットワーク」が、8日の「国際女性デー」に合わせて開いた。大学や行政関係者、市民約80人が参加した。

はじめに貧困やジェンダーの問題に取り組む「プラン・インターナショナル・ジャパン」（東京都）の池上清子理事長が講演。途上国では女性が十分な教育を受けられずに貧困の連鎖が続いていると指摘し、「自分を持ち意見を言える女生が育つことが、社会の多様性の実現につながる」と訴えた。

続いて、京都光華女子大・同大学短期大学部の一郷正道学長と京都女子大の林忠行学長、同志社女子大の加賀裕郎学長が「女性のリーダーシップを育てる」など教育方針を紹介。4人による討論会もあり、女性の教員や管理職の割合は増えている一方、出産や育児を理由にした退職者がいるなど課題を挙げた。林学長は教員は研究や教育で多忙だと話し、「まさに修行で、乗り越えるのは大変。教員採用に男女差別はないとはいえ、こうした事情が女性の壁になっていないか」と指摘した。

各大学で取り組まれているリカレント教育やキャリア教育についての報告もあった。（山田修裕）

2019 年 3 月 8 日（金）京都新聞
（朝刊・29 頁）

2019 年 3 月 8 日（金）産経新聞

（朝刊・24 頁）

女子大の役割考える

3校主催 公開シンポに80人

女子大学の役割や課題について考える公開シンポジウムが7日、京都光華女子大（京都市右京区）で開かれ、約80人の来場者が大学教員らの話に聞き入った。

日本の女子大が果たす役割を考え、社会貢献につなげようと同大や京都女子大、同志社女子大の3校が主催。貧困や差別のない社会を実現するために活動する「プラン・インターナショナル・ジャパン」理事長の池上清子さんや、主催3大学の学長らが参加した。

池上さんは女性の教育などをテーマに講演。教育が受けられない女性について「教育が受けられないことで読み書きができず、安定した職業にもつけない。これらは貧困が原因」と訴えた。

その後、各学長によるパネルディスカッションも実施。大学の女性学長を増やす方法というテーマで意見を交わした際には、京都女子大の林忠行学長が「女性の研究者が増え、大学に就職してもらい、次に管理職についてもらうことが必要」と説明した。

パネルディスカッションで意見を交わす3女子大の学長ら＝京都市右京区

2019 年 3 月 14 日（木）読売新聞

（夕刊・2 頁）

女子大の未来語る

女子大の課題に連携して取り組もうと、国際女性デー前日の７日、京都市右京区の京都光華女子大でシンポジウム「女子大学の現在、そして未来へ」が開かれた。

昨年３月に発足した「女子大学連携ネットワーク」が開催。同大学と京都女子大、同志社女子大の学長がそれぞれの教育体制などについて報告した。３学長とも男性で、林忠行・京都女子大学長は「女性教員は増えたが、学生の見えるところで女性がトップに立つことが重要。女性に学長になってもらいたい」と話した。このあと、子育てなどで離職した女性の学び直しを支援するリカレント教育の進め方などを話し合った。

※「メディア掲載」の記事・写真等は、各新聞社の承諾を得て転載している。

Ⅳ. キャリア教育

(1) キャリア教育・キャリア支援コーナー

社会人に必要なこころ・知識・能力を養成するため、学生一人ひとりに寄り添い、きめ細やかなサポートを行っている。また、自主的な学びと成長を促すための各コーナーを設置し、多様な選択肢から自分にあったキャリアを選択できるよう環境を整えている。

キャリア相談コーナー

センター所員と併せてキャリアアドバイザー（国家資格有資格者）を置き、社会人になるための心構えや基本的なビジネスマナーなどを個別に指導し、在学生や卒業生一人ひとりにあった丁寧で的確なアドバイスを行っている。

職業適性検査（キャリア・インサイト）

パソコンから簡単に職業情報の検索、適性と職業との適合、キャリアプランニング等ができる「キャリア・インサイト」を導入している。キャリアアドバイザーから結果をフィードバックし、就職活動だけではなく、今後のキャリアについて一緒に考える機会としている。

図書コーナー

2019 年度からセンター内に図書コーナーを設置し、国立女性教育会館（NWEC）女性教育情報センター所蔵図書のパッケージ貸出サービスによる図書の展示を行っている。キャリア・しごと、災害、LGBT など、毎回さまざまなテーマで実施している。

卒業生紹介コーナー

2019 年度からセンター内に「卒業生交流スペース」を開設し、卒業生の顔写真とそれぞれの就職先の情報や商品、在学生へのメッセージなどを掲示している。卒業生にとっては営業先のひとつとしていつでも大学に足を運べるようになるとともに、在学生にとってはOG 訪問やインターンシップの機会につながっている。

(2) 出張講義

ビジネスマナー講座

各学科のニーズに合わせて、インターンシップや臨地実習前のビジネスマナー講座を実施している。

月	対象	内容・タイトル
4	健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻 1 年生	充実した学生生活を過ごすために
6	短期大学部ライフデザイン学科 1 年生	就活にも役立つ！美しいビジネスマナー講座
7	基礎・教養科目インターンシップ履修者	ビジネスインターンシップ事前マナー学習
12	基礎・教養科目インターンシップ履修者	ビジネスインターンシップ事前マナー学習
1	健康科学部健康栄養学科 3 年生	学外実習前のマナー学習
2	健康科学部心理学科 2 年生	キャリア教育講座～基本的なビジネスマナーについて～

キャリア教育講座

全学的なキャリア教育プログラムガイダンスとともに、各学科・学年ごとにオーダーを聞き、センター所員が正課授業でさまざまな講座を実施している。

月	対象	内容・タイトル
4	全学部 1 年生	和室でのマナー
5	健康科学部心理学科 2 年生	女性キャリア・インターンシップについて
12	健康科学部医療福祉学科 3 年生	DV について

(3) インターンシップ

全学科共通科目として正課内で行うインターンシップと併せ、当センターにおいて正課外として提供している。大学コンソーシアム京都のインターンシッププログラムをはじめ、企業・自治体・NPO 法人等での就業体験を通して、社会人としての心構えや仕事のやりがい、働くことの意味を知り、自身の適性・能力を見出すきっかけにしている。インターンシップ先の選択から応募書類のアドバイスや添削などの事前準備、実習終了後の振り返り作業の事後フォローまで、一人ひとりに合ったきめ細かなサポートをしている。

インターンシップガイダンス

ガイダンスは夏のインターンシップに向けて、新学期早々の４月と５月に開催しており、各プログラムの紹介やインターンシップの探し方、単位認定の方法などについて説明している。

＜第１回＞
日　　時：2019 年 4 月 26 日 (金) 16:10 ～ 17:40
場　　所：本学 1 号館 2 階 203 教室
参加団体：大学コンソーシアム京都、京都府福祉人材サポートセンター、
　　NPO 法人 JAE、株式会社カース・キャリアセンター

＜第２回＞
日　　時：2019 年 5 月 17 日 (金)　16:10 ～ 17:40
場　　所：本学 1 号館 2 階 203 教室
参加団体：京都ジョブパーク、京都市わかもの就職支援センター、しがヤングジョブパーク

インターンシップ一部紹介

「SMBC 日興証券株式会社　京都支店」

実習期間：2019年8月26日 (月) ～9月6日 (金)(内、10 日間)
事業概要：金融商品取引業 (コンサルティング業務、投資銀行業務、
　　セールス・トレーディング業務、リサーチ業務)
実習内容：金融経済教育 (座学・グループワークなど) を通じて金
　　融業界に対する理解を深める。

参加者の声

証券会社のインターンシップに参加した理由は、もともと金融業界に関心があり、実際に現場で働いている方の話を聞いてみたいと思ったからです。実際に働いておられる方のお話しを聞いて、営業に対するイメージが変わりました。また、新人社員の方との懇談会では、就職活動のお話しを聞くことができ、とても参考になりました。フィールドワーク研修で松下記念館に行ったとき、松下幸之助さんの「素直な心」という言葉がとても印象に残り、私も素直さを忘れず、周りの人に愛される人間になりたいと感じました。今回インターンシップで学んだことを忘れずに、就職活動や今後の生活に活かしていきたいと思います。

（キャリア形成学部キャリア形成学科２年生）

事前学習・事後学習・成果報告会

当センターオリジナルのインターンシップノートを使用し、事前学習では企業研究や目標設定、事後学習では実習を振り返り、気づきや得た力を再確認している。また、成果報告会では、プレゼンテーション発表で実習での成果や学びを共有し、今後の活動や将来の進路選択に役立てている。

インターンシップノート

成果報告会

(4) 企業訪問研修

ホテルなどを訪問し、一般には立ち入れない現場の見学や働く人の声を聞くことから、社会人の心構えや責任感を養い、自身の将来設計に役立てることを目的としている。京都ならではの一流ホテルや料理旅館などで、実際にコース料理・懐石料理をいただきながらテーブルマナーや作法の意味を学び、日本が世界に誇るトップクラスのおもてなしのこころを伺うなど、貴重な体験を通して、精神性も養っている。

「京都ホテルオークラ」

日時：2020年2月3日（月）11：00～14：00
内容：テーブルマナー研修、スタッフとの交流会、館内見学

参加者の声

ホテルでの食事はあまり経験がなかったので初めはとても緊張しましたが、お料理を食べながらマナーを教えていただくと、マナーとはそこまで堅苦しいものではなく、本当にちょっとした気配りや礼儀なのだということに気がつきました。魚をまるまる１匹フォークとナイフで食べるということを経験したことがありませんでしたが、コツを教えていただき、とても綺麗に骨だけ残して食べることができました。作法だけではなく、テーブルマナーの文化についても教えていただき、とても楽しく学ぶことができました。この経験を今後に活かしていきたいです。

（健康科学部健康栄養学科学科２年生）

(5) ボランティア

誰かの役に立つことの喜びを通して、心豊かな人間性を養い、受入先での業務と併せて、「働くことの意義・価値」を学ぶ貴重な機会としている。当センターでは、学生一人ひとりに合ったボランティア活動への参加を勧めている。

ボランティア活動一部紹介

「西院ふれあい食堂」

日　時：毎月第２土曜日　10：00～14：00
場　所：在日大韓基督教会　京都教会
概　要：配膳のお手伝いやおやつのベビーカステラ作り、食事を終えた子どもたちと絵本やゲームで交流するなど地域の方・他大学からのボランティアスタッフと役割分担しながら活動している。毎回 200 名近くの方が来場する。
参加者：毎月４～５名

参加者の声

毎回たくさんの方が参加しているとてもにぎやかで楽しい食堂です。定番メニューはカレーで、おやつにはベビーカステラを私たちが作っています。行列ができるほど大人気なので、子どもたちがおやつばかり食べすぎないよう、券を配ったり、個数を限定するなど、工夫をしています。遊びのスペースもあり、食事が終わった子どもたちと紙芝居やおもちゃで一緒に遊ぶこともあります。こども食堂でのボランティアを通して、誰かと一緒に食事をするということの大切さを改めて感じることができました。これからもこのボランティアを続けていきたいと思います。

（健康科学部心理学科１年生）

「虹色アート」

日　時：2019 年８月４日（日）10：00～14：30
場　所：BiVi 二条　北側特別会場
概　要：アートと触れ合う場を提供している「虹色アート」の取り組みに参加し、「描く」「作る」「作品を見る」「考える」ことの楽しさ、心にあるものを形にして人に伝える喜びや達成感を経験するワークショップを行った。スマートボールの制作や透明のボードに自由に落書きするなど、子どもたちと楽しく共同制作を行った。
参加者：１名

参加者の声

はじめは緊張して、お母さんの後ろに隠れていた子どもたちが、一緒の空間を共有しているうちにおしゃべりできるようになり、最後には「ありがとう」とニコニコしながら手を振ってくれました。今回初めて虹色アートのボランティアに参加しましたが、虹色アートのワークショップでは、子どもたちが好きなように満足するまで思い切り遊ぶことができ、発想力を高められるとともにコミュニケーション力を養えるとても貴重な場であると感じました。ボランティアとしてサポートする側でしたが、子どもたちからたくさんパワーをいただきました。これからも人との関わりを大切に、さらに多くの人と交流して自分を磨いていきたいと思います。

（健康科学部看護学科１年生）

「みんなのスポーツフェスタ」

日　時：2019 年 10 月 14 日（月・祝）8：30 ～ 17：30
場　所：西京極総合運動公園
概　要：公益財団法人京都市スポーツ協会主催のスポーツイベントにおける大会運営の補助。
参加者：21 名

参加者の声

私は体育館前で案内・誘導を担当しました。いつどこでどんなプログラムが開催されているのか、また、各プログラムの会場までの経路などを事前に確認し、スムーズに案内できるようにしていました。子どもからお年寄りまでたくさんの方が体操のプログラムに参加しており、どの年代であっても健康に関心のある人が多くいるということを知り、とても驚きました。今回は案内係でしたが、また機会があれば今回とは違う係のボランティアとして参加してみたいです。

（健康科学部心理学科 1 年生）

「京都マラソン給水ボランティア」

日　時：2020 年 2 月 16 日（日）6 時～ 11 時
場　所：第一給水所（4.5km 地点、栂原堤）
概　要：京都マラソンのランナー 16,000 人を支えるボランティアとして、2015 年度から毎年たくさんの学生が活動に参加している。本学は毎年、嵐山・嵯峨ブロックを担当し、ランナーにとって最初の給水ポイントである第一給水所を担う。案内・誘導、給水、コース（沿道）の整理など各チームに分かれ業務に従事する。朝 6 時に学校へ集合し、バスで現地に向かうため、学内に前泊する学生もいる。
参加者：43 名

参加者の声

早朝から準備を始め、寒い中での活動でしたが、お水を受け取ったランナーの方々から「ありがとう」と言っていただき、誰かのために働くということの喜びを感じることができました。日頃の学生生活の中では、なかなかこのような機会はないので、今回このボランティアに参加して本当によかったです。前日に学校で宿泊したことも良い想い出となりました。また来年も参加する予定です。

（2018 年度参加　健康科学部健康栄養学科 2 年生）

(6) 学 Booo

教職員の提案により募集する通年・前期・後期のラーニングコミュニティ、通称『学 Booo（まなぶー）』は、自由参加型の学習グループである。学生が自分の興味や関心のあるテーマを選択し、同じ興味を持った他学年・他学科の学生や教職員とともに、少人数グループで定期的に集まり学習に取り組んでいる。アドバイザーである教職員とともに、学生が中心となって積極的に活動し、座学型、体験型では自分磨きのために、PBL 型では地域連携や社会貢献、企業の商品開発にも参画している。

通年 / 座学型

レインボープロジェクト～人を支える社会づくりを考える～

レインボープロジェクトは、2016 年度、医療・福祉を学ぶ学生が中心となり、それぞれが目指す職種について理解を深め、多面的な物事の見方を学ぶと同時に、専門職を目指す学生同士の異種間の繋がりの創出を目指し、学生が自発的に立ち上げた活動である。2017 年度から「学 Booo」の一つとなり、全学科の学生がそれぞれの専門領域の枠を超え、学びを共有し授業では学べないことを学び合うことを通して連携を深め合う取り組みを行っている。2019 年度は、「人を支える社会づくりを考える」をテーマに医療的ケアの必要な子どもたちとの交流を中心とした 3 回の取り組みを企画した。

担　当：塩崎　正司（学習ステーション）
　　小澤　千晶（キャリア形成学部キャリア形成学科）
参加者：8 名

VOICE

今年度は、医療的ケアの必要な子どもたちとの交流を中心に行いました。増えつつある医療的ケア児と、その家族の生活の様子を聞かせていただくことで、今の課題が見えてきました。また、一緒に遊ぶことで、医療的ケアがあっても子どもは当たり前に可愛いと感じました。そして、重度の障害があっても教育を受け、当たり前に成長することも再確認しました。大学で学んでいる今、考えることができて本当に良かったと思います。
（健康科学部医療福祉学科 3 年生）

通年 / 座学型

読書サークル・ビブリオフィリア

読書サークル・ビブリオフィリアは、本好き女子大生が集い、語り合うサークルです。2019 年度前期の活動としては、メンバーのお気に入りの本を紹介し合う「なんでも読書会」、「山極寿一『ゴリラからの警告「人間社会、ここがおかしい」』を読む会」を行いました。また、自然の中で読書をしよう、ということで、植物園に行き読書会をしました。後期は、「教員に学生に読んでほしい本をインタビューしてきて報告する会」からスタート。図書館とのコラボ企画として、オススメ本のポップ作りをして、ビブリオフィリアおすすめ本フェアを開催しました。読書は一人でもできますが、仲間と本について語り合い、一緒に色々な企画をすることで、新たな本と出会え、学識のある人への一歩を踏み出すことができました。

担　当：太田　蕗子（真宗文化研究所）
参加者：9 名

VOICE

「ビブリオフィリア」は本来、本好きのためのサークルですが、実は私はあまり本が好きではありませんでした。でも、本を読むことでたくさんの知識を得られることは知っています。本を読むことを習慣にすることによって、本を好きになることが目的で入りました。今年度は、外で本を読んだり、紹介 POP を書いたりと、新しいことにも挑戦しました。ビブリオフィリアに入ることで、とても有意義な学生生活を送っています。
（健康科学部医療福祉学科 3 年生）

通年 /PBL 型

KOKA ☆オレンジサポーターズ

右京区や近隣の地域における認知症の方を含めた高齢者・障がい者に対する食支援の取り組みについて学ぶとともに、高齢者や障がい者の食べる機能の維持の啓発など、学生にできる支援を行うことを活動の目的としています。また、高齢者や障がいがある方が食べやすいように開発された「やわらか和菓子」の新商品の開発に参加しています。大学では、右京区介護予防推進センターさんのご協力により、近隣の高齢者を対象とした介護予防サロン「KOKA ☆オレンジサロン」を年 6 回開催、出張イベントとしては、夏休みや春休みに近隣の施設に出向いて、「出張 KOKA ☆オレンジサロン」を開催し、そのなかで「やわらか和菓子」を紹介しています。

担　当：関　道子（健康科学部医療福祉学科）
　　藤澤　克彦（健康科学部健康栄養学科）
参加者：25 名

VOICE

今年度は、地域の方をお招きして「KOKA ☆オレンジサロン」を複数回、開催することができ、そこで出会う方々との交流を深めることができました。普段は、なかなか話す機会のない世代の人とお話をするため、楽しい交流の場であり、コミュニケーション力が以前より身についたと実感しています。さらに、幅広い学科・学年の人がともに活動しているため、学びを深めることができます。

（健康科学部医療福祉学科 3 年生）

通年 /PBL 型

京しかミーツ

京しかミーツの活動は、前期は鹿肉の勉強や実際の調理とイベントで販売する新メニューの開発が中心で、後期は実際に学外イベントで鹿肉料理の販売をしたり、鹿被害の現地の視察に出向いています。鹿肉料理教室のように毎年続けているイベントに加え、毎年新しい活動にチャレンジしています。今年は児童館でのこどもたちとの鹿肉餃子作りです。保護者の方も来てくださり、鹿肉のおいしさを伝える絶好のチャンスとなりました。少しずつですが、年々活動範囲を広げ、卒業生が毎年のイベントにを楽しみに参加してくれるのも嬉しいことです。

担　当：濵田　明美（短期大学部ライフデザイン学科）
参加者：18 名

VOICE

今年度はメンバーも増え、より活発でにぎやかな活動になりました。イベントでは多くの人と話すことができ、新しいことや鹿について多くのことを知ることができました。鹿肉を使った料理の考案やイベント出店、料理教室の開催などとても楽しかったです。また、毎年楽しみにイベントや料理教室に来てくださる人がいることもやりがいに感じています。

（健康科学部健康栄養学科 3 年生）

通年 /PBL 型

女子学生による選挙啓発プロジェクト（ＡＣＴ）

2019 年度は、４月７日に実施された「京都市議会議員一般選挙及び京都府議会議員一般選挙」と７月 21 日に実施された「第 25 回参議院議員通常選挙」の啓発活動が主な活動になりました。いずれの啓発活動も京都市選挙管理委員会の「啓発活動支援事業」の採択を受け、模擬選挙や勉強会、学生自らがデザインしたポスターやチラシの設置、さらには、ホームページや SNS による広報などを実施しました。学期の始まりや期末試験の直前と選挙日程が重なったため、スタッフの学生は企画運営に大変苦労しましたが、これらの取り組みは京都新聞や朝日新聞にも取り上げられました。

担　当：乾　明紀（キャリア形成学部キャリア形成学科）
参加者：10 名

VOICE

今年度の活動は４月に行われた統一地方選、７月に行われた参議院選挙の選挙啓発活動を行いました。チラシやポスターの作成、外部講師の方による講演会の企画運営、HP や SNS の更新、瑞風館食堂にてトレーマットの設置、他大学の選挙啓発活動を行う団体とコラボし、「そう、政治カレー」を販売しました。長期休暇中やテスト前などの忙しい時期でしたが、若者への効果的な啓発のためにとことん話し合いを重ねました。外部の団体や企業の方々とも関わる経験ができるのも魅力の１つです。

（キャリア形成学部キャリア形成学科３年生）

通年 /PBL 型

葛野学区活性化プロジェクト

2019 年度に新たに始めた本プロジェクトは、本学学生と地元町内会をつなぐことで地域（葛野学区）の活性化を目指す取り組みです。葛野学区の自治活動は、他地域と同様に高齢化や人手不足などの課題があり、大学や学生への期待は決して低くありません。しかしながら、学生と町内会との交流はこれまでほとんどありませんでした。そこで、交流の第一歩として、葛野学区の子どもたちと学生が交流できるハロウィンイベント（10 月 19 日開催）を企画し、自治連合会の方たちと一緒に実施しました。当日は、小雨もぱらつく天候でしたが、思い思いの仮装をした子どもたちと保護者が 100 名近くも参加してくださいました。楽しそうにお菓子を受け取りながら大学内をめぐる子どもたちの様子がとても微笑ましいイベントになりました。このイベントのほか、自治連合会主催の区民運動会や夏祭りにも参加したりしながら、様々な世代の地域の方々と交流を深めました。

担　当：乾　明紀（キャリア形成学部キャリア形成学科）
参加者：９名

VOICE

この活動では、普段あまり関わる機会の少ない地域の方々と交流することができます。私たち学生は葛野学区の大学に通っているにもかかわらず、地域課題に関心が少なく、地域の方々の恩恵を無意識のうちに受けています。自分たちの学びを地域に活かすことができれば、自信へとつながり、地域への関心も高まると思います。私はこの活動を通して、地域活動の大切さや他者との向き合い方を学ぶことができました。

（キャリア形成学部キャリア形成学科３年生）

通年 / 体験・実習型

さーくるＫ（韓国）

さーくるＫでは韓国語を学生同士で教えあったり、他大学の韓国人留学生と交流したり、楽しく韓国語を学ぶことができます。韓国語の授業や、教科書からでは学ぶことのできない日常で使う言葉や、流行語なども学ぶことができます。学生が主体となって活動内容を決めるので自分の「やってみたい！」を叶えることができる活動です。

担　当：細川　櫻子（国際交流センター）
　　藤原　加織（学務企画部）
参加者：18 名

VOICE

初めの頃は全く韓国語がわからなかったのですが、さーくるＫのみんなと一緒に勉強することで、今ではある程度の韓国語が理解できるようになりました。韓国語能力試験で目標の級に合格できたり、韓国旅行に行った時にハングルが読めたり、留学に行った時に現地の学生と会話できるなど徐々に成長している事が実感できるのが嬉しくもあり楽しいです。

（健康科学部看護学科２年生）

通年 / 体験・実習型

くりえいてぃぶ ～ Creative ～

アイディアをカタチにする学 Booo です。やってみたいけど、ひとりでは実現できないようなコトを考え、その企画立案からプロモーション、運営まで、一連の活動に取り組みます。今年度は、動画コンテストへの応募、韓国メニューの試作、あかね祭出店、就職活動に向けた自己分析セミナー、企業との座談会の開催、英語の勉強会に取り組みました。
もちろん成功ばかりではありません。例えば、動画コンテストへの応募は、作品制作の計画を立て実行していましたが、思うように作業が進まず締切に間に合いませんでした。しかし、メンバーたちはその失敗から、時間管理やチームワークの大切さを学び、次なる活動へ生かしていました。ひとりでは難しいことも、誰かと一緒にやれば実現できることを学べたと思います。失敗を恐れずチャレンジする精神力や行動力を身につけて欲しいと考えています。

担　当：小山　理子（短期大学部ライフデザイン学科）
参加者：６名

VOICE

あかね祭では、どんなメニューが売れ行きが良いかを考えることから活動を始めました。単純に思いつきではなく、過去の売上から検討したり、若い女性の流行から検討したり、いろいろな視点から分析する大切さを知りました。そして、チラシや看板の作成、調理、販売など、いろいろな業務がありましたが、メンバーがそれぞれの得意を生かして、役割分担をし、スムーズに作業ができました。チームで働く時のポイントを学べたと思います。社会に出てもここでの経験を生かしたいです。

（短期大学部ライフデザイン学科１年生）

通年 / 体験・実習型

KYOTO ユニバーサルデザイン・ガイドマップの作成

これまで、ガイドマップ繁華街編（河原町・烏丸・大宮・西院）、京都駅編を作成してきましたが、今年度は観光スポット（寺社仏閣・公園など）の調査とマップ制作を行ってきました。京都には国内外から毎年多くの観光客が訪れますが、国籍、性別、年齢、障がいのあるなしに関わらず、皆が共有して必要とする施設などの情報を網羅した、ユニバーサルデザイン･ガイドマップの役割はたいへん重要です。今回、東本願寺、清水寺など歴史ある施設も調査しましたが、スロープやエレベーターなどが完備されていて、車椅子利用者にも負担なく施設内を巡回できるルートが完備されていることがわかりました。現在、今回の調査分と今までガイドマップに掲載したものすべてを、本学ホームページからいつでもプリントアウトして利用できるよう、ガイドマップ Web 版を制作中です。より多くの人に利用していただきたいと思っています。

担　当：井川　啓（短期大学部ライフデザイン学科）
参加者：11 名

VOICE

雨、雪、風など、天候の悪い日の調査はたいへんでしたが、ガイドマップが役に立ったという声をいただくたびに、たいへんやりがいを感じることができました。また、TV、新聞、雑誌の取材を受けたり、京都市主催のイベントにも参加させていただいたり、いい社会勉強ができました。これからも、若い私たちには気がつかない不便を感じている人はいないのか、ユニバーサルデザインの精神をもって生きていきたいと思います。
（健康科学部医療福祉学科 4 年生）

通年 / 体験・実習型

ピアノを弾いてみよう！

ピアノ未経験･初心者の学生が､基礎的なピアノ演奏法について学び､演奏を通して音楽に親しむことを目的に活動している。個人レッスンを中心とした個別指導を行っており、童謡を中心とした弾き歌いや、各自のレベルに合わせた曲を通して、ピアノに親しむ時間を増やすとともに、効率的で効果的にピアノ演奏の技術向上を目指している。

担　当：川西　千弘（健康科学部心理学科）
　　南　多恵子（健康科学部医療福祉学科）
　　吉川　恭子（学生サポートセンター）
参加者：11 名

通年 / 体験・実習型

コミュニケーション支援プロジェクト

コミュニケーション障害を持つ方々の状態や生活状況を深く知ること、また、社会活動への参加状況を学び、可能な支援を考え、実行することを目的として活動している。コミュニケーション障害を持つ方が利用する施設や友の会を見学し、ボランティア活動など通して、座学だけでは得られない学びを行っている。

担　当：瀧澤　透（健康科学部医療福祉学科）
　　松田　芳恵（健康科学部医療福祉学科）
参加者：20 名

通年 / 体験・実習型

日本の伝統美「和のテイスト」研究会

日本、特に京都に受け継がれる伝統文化の中にある日本人の美意識を探求し、長い歴史で醸成・洗練された和の世界を知り理解することから自身の感性と教養を高め、「和」の精神性をもった心豊かな国際人への成長をめざすことを目的として６年目を迎えた。本年度も、まず身近な和文化の「きもの」を取り上げ、浴衣の着付けから始め、美しい所作について学び、さらに十二単衣の衣紋についても講習を開始した。フィールドワークとしては寺社・旧跡を訪ね、その周辺に伝わる伝統文化・産業、芸術等に触れ、祇園祭宵山では山鉾を飾る「懸装品」の貴重な美術品と、鉾町に伝わる伝統行事を見学した。年度末には毎年好評の「書」の学びとして平仮名・自分の名前を美しく書く稽古と、京菓子の老舗での和菓子づくり体験等を予定している。日本の伝統文化との出会いは、自身に内在する感性に気付く場、貴重な時間として学生から好評を得ている。

担　当：知念　葉子（キャリア形成学部キャリア形成学科）
　　中山　佳子（短期大学部ライフデザイン学科コモンズ）
　　真東　美也子（本学卒業生・旧職員）
参加者：９名

VOICE

私は小さい頃から着物に興味があり、自分で着られるようになりたいと思ったことがきっかけで参加しました。学内では貴重な十二単の着付けも間近で見学させていただいたり、学外では老舗と新しいお店の並ぶ街を散策したり、京都ならではの伝統文化に触れることができました。特に、街の散策では、和菓子職人の方から季節感の取り入れ方のお話を聞いたり、お寺や庭園の拝観、なかなか入れない伝統工芸品のお店を見学したりと、「和の美」を知る貴重な体験をすることができました。これからも日本の伝統文化に触れることを通して感性を豊かにし、ものの見方・考え方を広げていきたいです。

（こども教育学部こども教育学科２年生）

学 Booo 説明会

学期始めに、各学 Booo の担当教職員や参加学生がブース形式で説明会を行っている。

【前期説明会】　日時：2019 年 4 月 23 日（火）・24 日（水）昼休み 12：10 ～ 12：40
　　場所：賢風館地下 1 階・1 号館 1 階女性キャリア開発研究センター

【後期説明会】　日時：2019 年 9 月 25 日（水）昼休み 12：10 ～ 12：40
　　場所：賢風館地下 1 階

Ⅴ. リカレントプログラム

(1) 京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部リカレントプログラム

本学では、当センターが中心となり、地域連携推進センターと協働しながら 2019 年 9 月からリカレントプログラムを開始した。本取組は、2019 年度「大学連携京都府リカレント」に選定されている。本学にとってリカレント教育は、各センターが進めてきた女性のための就業支援と地域社会のための事業を融合させ、「女子大学」の特性を活かした教育内容を付加した社会貢献活動として捉えている。講座の開設にあたっては、リカレントプログラム受講者のための「基礎講座」に加え、職場や社会で必要とされるスキルを身につけるため 4 学部 7 学科の専門教育科目を活用している。加えて、様々な課題に対応する力を養うために本学で開講される「リベラルアーツ教育科目」を提供している。また、講座を開設するだけでなく、就職のサポートや育児をしながらでも参加しやすいように保育サポートも提供している。仕事に復帰したい方、専門職としてキャリアアップしたい方など、多様なニーズをもつ方々の就業を支援していきたい。

2019 年度パンフレット

開講式・オリエンテーション

キャリアデザインⅠ

講座の構成

プログラム修了の要件 60 時間以上を満たした方は、本学の「履修証明書」を交付する。「ビジネス講座」と「専門職講座」の履修については、「京都光華女子大学科目等履修要項」に基づき、上限 6 科目としている。

2019 年度スケジュール

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
7/8 申込開始	8/16 申込締切	9/17～20 基礎講座	専門職講座・ビジネス講座 (10/1 ～ 1/24)					
	8/27～29 選考（面接）							
	8/31 結果通知	就業準備 (9 月中旬～ 3 月中旬)						

講座内容とその他

基礎講座

開講期間：2019 年 9 月 17 日～ 9 月 20 日、
　　11 月 5 日、1 月 21 日
講座時間：2 講時～ 4 講時
開講科目：キャリアデザイン Ⅰ
　　キャリアデザイン Ⅱ（11/5）
　　キャリアデザイン Ⅲ（1/21）
　　ビジネスコミュニケーション
　　リーガルリテラシー
　　男女共同参画社会とジェンダー
　　マネジメントとリーダーシップ
　　IT リテラシー (Word, Excel, PowerPoint)
　　外国語基礎（英語 , 中国語 , ハングル）

ビジネス講座

開講期間：2019 年 9 月 23 日～ 1 月 24 日
開講科目：【スキル科目】
　　実践中国語 Ⅱ
　　ファイナンシャルプランニング入門
　　情報リテラシー応用
　　簿記・会計実務基礎
　　表計算演習 Ⅱ a・Ⅱ b
　　実践ビジネス英会話
　　実践英語 Ⅱ B
　　コンピュータ活用 Ab(グラフィック系)
　　TOEIC Ⅱ
　　情報技術の理解
　　コンピューターグラフィックス論
　　観光英語 Ⅱ
　　ワープロ演習 Ⅱ a・Ⅱ b
　　コンピュータ活用 Bb(グラフィック系)
　　プレゼンテーション・セオリー

【多様な視点を養う科目】
女性のキャリアデザイン
国際関係論
色彩の基礎
国際社会とジェンダー a・b
社会政策
生活と防災
ソーシャルビジネス
社会学
観光リソース
まちづくりデザイン
エンターテイメント論 Ⅱ
社会とジェンダー

専門職講座

開講期間：2019 年 9 月 23 日～ 2020 年 1 月 24 日
開講科目：【国家資格関連科目】
　　保育内容Ⅴ（総合表現Ⅰ）
　　保育内容Ⅴ（総合表現Ⅱ）
　　地域福祉 Ⅱ
　　福祉行財政と福祉計画
　　相談援助の理論と方法 Ⅱ
　　摂食嚥下障害学特論
　　認知症特論
　　画像診断学演習
　　心理学的支援法
　　管理栄養士国家試験対策講座
　　健康運動実践指導者試験対策講座
　　日常生活を支える看護技術 Ⅱ
　　仏教の人間観

メディア掲載

2019年7月18日「リビング京都」西南掲載（3頁）

就職サポート

◆個別カウンセリング
キャリアカウンセラーが受講者一人ひとりの適性を見極め、再就職、起業など希望するキャリアプランの実現に向けてサポートする。
◆就労前セミナー
ビジネスマナーや社会人の心構えなど、職業人として必要なスキルを習得する。

保育サポート

リカレントプログラム受講中、本学にて保育サービスを提供。
保育対象者 ：生後 6 ヶ月～未就学児まで
保育料　　：1 日 500 円

受講生の声

人生100年時代、産後からの社会復帰にリカレント教育を！！

出産・育児、夫の転勤や親の介護等の家庭事情により、一時的にキャリアを中断するなど、選択を迫られる時期が女性には数多くあります。私自身、就労継続を希望しておりましたが出産を機に退職するに至りました。切迫早産による長期入院・異常分娩は母子共に回復に時間を要し、就業継続の道も閉ざされました。予定不調和の連続に打ちのめされた産後、社会から切り離されたような育児空間に息苦しさを感じ、悶々と過ごしておりました。そのような中で母校のリカレントプログラムの受講を決意しました。学内保育サポートは「預けられない、働けない」のジレンマからの脱却に繋がり、待機児童期間を有効に過ごせるものでありました。毎日子供と出掛ける習慣は、復職後の 1 日をシミュレーションすることにも繋がり、チーム育児として家族の協力体制を構築すること、また病後保育やファミリーサポートなどのフォロー体制構築にも繋がりました。子どもも慣らし保育期間となり、良い生活リズムに繋がっています。また FP やジェンダーの講義を通じて、夫婦で話し合う機会が増え、家族のライフプランを共有することにも繋がり、ONE TEAM として結束を固めることに繋がったように思います。働きママン一年生として、現在スタートしております。

(2) 女性のためのリカレント教育推進協議会

女性のためのリカレント教育課程を運営する本学、日本女子大学、関西学院大学、明治大学、福岡女子大学、京都女子大学、京都光華女子大学の６大学は、大学が相互に連携をとりながら、問題点の共有と解決に向けての検討を行うとともに、社会的認知のため啓発活動、関係官庁への提言などを行うため、「女性のためのリカレント教育推進協議会」を発足し、キックオフシンポジウムを開催した。

開催日時：2019 年 12 月 5 日（木）13:20 ～ 16:30
開催場所：日本女子大学目白キャンパス　新泉山館大会議室
テ ー マ ：「女性のためのリカレント教育の社会的役割―日本社会の持続的な発展のために―」
参加大学：日本女子大学、関西学院大学、明治大学、福岡女子大学、京都女子大学、京都光華女子大学（リカレント教育プログラム設置順）

【タイムテーブル】

13：20　開会挨拶
13：25　開催趣旨説明　日本女子大学生涯学習センター 所長 坂本 清恵氏
13：30　ご挨拶　大同生命保険株式会社　執行役員 小林 康弘氏
13：40　講演１
日本経済団体連合会　常務理事 井上 隆氏
テーマ「リカレント教育の活性化に向けて：経団連の取り組み」
14：10　講演２
文部科学省 高等教育局 専門教育課 企画官 西山 崇志氏
14：25　講演３
厚生労働省 人材開発統括官付 人材開発政策担当参事官 相本 浩志氏
15：00　パネルディスカッション
日本女子大学・関西学院大学・明治大学・福岡女子大学・京都女子大学・京都光華女子大学
16：00　閉会挨拶

女性キャリア開発研究センター 2019 年度報告書

編集・発行　2020 年 3 月

女性キャリア開発研究センター
加藤　千恵　　（センター長）
関　めぐみ　　（センター所員）
藤谷　ゆう　　（センター所員）

女性キャリア開発研究委員会
加藤　千恵　　（センター長／副学長／キャリア形成学部キャリア形成学科／教授）
和田　幸子　　（こども教育学部こども教育学科／准教授）
南　多恵子　　（健康科学部医療福祉学科／准教授）
藪添　隆一　　（健康科学部心理学科／教授）
中木　直子　　（健康科学部健康栄養学科／助教）
貞岡　美伸　　（健康科学部看護学科／教授）
吉田　咲子　　（キャリア形成学部キャリア形成学科／准教授）
井川　啓　　（短期大学部ライフデザイン学科／教授）
関　めぐみ　　（センター所員／助教）
藤谷　ゆう　　（センター所員／職員）

華の煌き この未来も

2020 80th 1940

学校法人光華女子学園

学校法人
光華女子学園

京都光華女子大学大学院
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都光華高等学校
京都光華中学校
京都光華小学校
光華幼稚園

京都光華女子大学・京都光華女子大学短期大学部　女性キャリア開発研究センター

〒615-0882　京都市右京区西京極葛野町 38
【TEL】075-325-5315・5473　【FAX】075-314-4515
【E-mail】careered@mail.koka.ac.jp